

Bloody Ukiyo-e

in 1866 & 1988



Painted by
S. Maruo,
K. Hanawa,
Yoshiroshi,
Yoshiki

Libro-Port

江戸昭和競作

無惨絵英名千八衆句

画原題 丸尾末廣 西昌 月岡芳年
花輪和 落合芳幾

江戸昭和競作

無惨絵

Bloody Ukiyo-e
in 1866 & 1988

英名千八衆句

画【昭和】

花輪和
丸尾末廣

画【江戸】

月岡芳年
落合芳幾



定価
三九〇円

ISBN 4-8457-0312-2
C0071 ¥2900E

リブロポート

リブロポート

Donated by
K. Hanawa,
S. Maruo,
Yoshitaphil,
Yoshitaku

江
吉
昭
和
競
作

無
慘
絵
葵
名
千
八
衆
奇

Body Ukioe in K&G & JCS
江戸時代 浮世草子
花柳 江戸 浮世草子

Donated by
K. Hanawa,
S. Maruo,
Yoshitaphil,
Yoshitaku

江戸時代
浮世草子
花柳 江戸 浮世草子

西
宮
也
丸
尾
木
廣

花柳和

西
宮
也
丸
尾
木
廣

花柳和

画【昭和】
丸尾末廣
花輪和一
画【江戸】
月岡芳年
落合芳幾

Bloody Ukiyoe in 1866 & 1988

江戸昭和競作

無惨絵

英名三千八百句

リブポート

Painted by
S.Maruo,
K.Hanawa,
Yoshitoshi,
Yoshiiku

Libro-port





讃

あかた森魚
二〇世紀末嗜好症

荒俣宏
ほとばしる良識あふれる俠気

椋岡かすお
ドラマックと恐怖なのだ！

遠藤ミチロウ
アタラの血は美味くはない

窪田清彦
ワイレドの〜あたり

川全二郎
清潔な時代の汚れた血

杉浦日向子
太平に倦む

潮木慎一
もー今芳年

宗全昌嗣
曼珠沙華の花粉のように

都築蓮夫

昭和無残絵の期待

細野睦臣

丸尾さん花輪さんへ

※

解説

高橋克彦

なぜ残難絵なのか

新英名二十八衆句

赤すきん 木廣筆

舌切雀と突張娘 和筆

へび少女 木廣筆

梶間友彦 和筆

フリツハールシ 木廣筆

都井陸雄 和筆

一柳展也 木廣筆

ホラシク 和筆

江戸川乱歩 木廣筆

磯良と正太郎 和筆

アドルフヒトラー 木廣筆

阿部定 和筆



英名二十八衆句

俊二 木蘭筆

月光飯面と分家嫁 和一筆

水田洋子 木蘭筆

白虎隊 和一筆

ピーターキムラシ 木蘭筆

富姫 和一筆

大久保清 木蘭筆

河内屋与兵衛 和一筆

夢野久作 和一筆

河童 和一筆

甘粕正彦 木蘭筆

一寸法師と殿上人 和一筆

眠り男 木蘭筆

源頼光と酒吞童子 和一筆

マクホラン 木蘭筆

芳年と幻太夫 和一筆

春藤治郎左門 芳幾筆

古手屋八郎兵衛 芳幾筆

天日坊法策 芳幾筆

福岡貞 芳幾筆

仁木直則 芳幾筆

等森於仙 芳幾筆

鬼神於松 芳幾筆

団七九郎兵衛 芳幾筆

十木伝七 芳幾筆

勝間源五兵衛 芳幾筆

遠城治左門 芳幾筆

遠城喜八郎 芳幾筆

邑井長庵 芳幾筆

白井権八 芳幾筆

島井又助 芳幾筆

稲田九藏新助 芳幾筆

浜島正兵衛 芳幾筆

由留木素玄 芳幾筆

げし美代吉 芳幾筆

御所五郎藏 芳幾筆

佐野治郎左門 芳幾筆

因果小僧公之助 芳幾筆

国沢周治 芳幾筆

高倉屋助七 芳幾筆

西門屋啓十郎 芳幾筆

姐妃の於百 芳幾筆

鞠ヶ瀬秋夜 芳幾筆

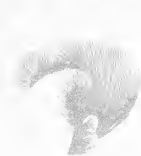
直助権兵衛 芳幾筆

解説

宗谷貞剛

英名二十八衆句 三つ

作品解説



願望を促すよりも、もっと積極的な生への諦めに作用する。それゆえにこの作品群は危険なのだ。死を意識した人間にとって背中から崖に突き落とす腕にも等しい。

◆けれど、それは平和な現代における解説に過ぎない。発表された当時、江戸の人々はもっと現実的な恐怖としてこの二十八衆句を受けとめたことだろう。我々は歴史の上でこれか二年後の幕府の瓦解を知っているが、彼らはそれを知りもしない。ただ、激しい嵐の予感に震えていただけだ。幕府の崩壊がなにをもたらすか、その先の想像はだれにもできない。黒船の来航がそれに拍車をかけていた。確実に時代は変わろうとしていたのだ。しかし、それを分かっているのなら、だれもが目を背け、耳を覆った。無理はない。施政者が変わるだけなら対応もできただろうが、彼らにとって外国人の出現は思惑をはるかに越えた問題だった。予測などできるわけでもないのだ。価値観も違えば生活も異なる人間の侵入に対して対処のしようもない。その不安を押し破るようにして、ええじゃないか、ええじゃないかの反動が巻き起こる。嫌なことを考えながらでも仕方ない。吾気に構えてもええじゃないか、という具合だった。つまりは恐怖と混沌の絶頂である。英名二十八衆句が生まれたのは、まさにこの時代だった。人々はせつなく恐れようとしていた不安を喉元に突き付けられたような気分に見られた。と解くのは安易な解釈だろう。むしろ、逆にこの恐怖の画果は歓迎されたのだ。怖いもの見たさからの単純な欲求でもない。より怖いものを二人に突き付けられてホッとしたのである。時代が変わることの恐怖は、突き詰めて言うと、生活への不安が最大のポイントだ。暮らしていかないといけない問題は、生きるか死ぬかの問題にまで発展する。だれもがそれを分かっている。口にはできない。そこにこの画集の登場場、テーマはすべて殺人。いったん地獄を見れば、どんな恐怖にも耐えられる。時代がどんなに厳しい方向に動いたとして、まさか英名二十八衆句に描かれた世界よりも酷くはならない。それを人々はこの絵によつてはつきりと知らされたのだ。溢れる血に寒気が登る現実的な恐怖と戦いながら、ホッと安堵の息すら吐いたに違いない。英名二十八衆句の成功は、時代を要求でもあった。と言って、肝腎の芳幾と芳年への恐れがはつきりとあつたかどうかは……分らない。けれど画面全部を血で埋めつくすことによつて、なにかを壊したいと言つたのは確かはずだ。それ自身を襲う不安なものか、国家なのか、大衆の安穩さなのか、見せかけの日常なのか。あるいはそのすべてだろう。その意味でもこの英名二十八衆句は稀有の画集なのである。血は怒りであり、勇気であり、諦めであり、また逃避でもあった。

◆そして……百二十年が過ぎた今。

◆花輪和ひと丸尾末廣がふたたび『新英名二十八衆句』を描いた。これはパロディではない。また英名二十八衆句の再確認でもない。芳幾と芳年のときのように、また後代がそれを要求しているのだから。時代は病ん

でいるのだ。ポロポロに崩壊しそうな気配を敏感に察し、二人の筆を借りて我々に訴えかけようとしている。警告を発している。

◆夏でもないのに世界にはスプラッタームービーが氾濫し、アメリカ人はまた戦争をやりがつて『プラトーン』や『サルバドル』を反戦映画だと信じて観ている間抜けはともかく、多くの人間が血を求めてうずうずしている。未来のない国家と自分とそれだけが不安と恐怖を抱いている。

◆だからこそ血と戦争に傾いていく。

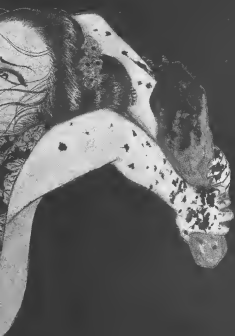
◆ケネディのときに約束されていたはずの人類の輝ける未来などつくづくどこかに消え飛んでしまった。なぜなのか？

◆世界中の人々が、ちょうど百二十年前の日本人のように国家の壊滅と黒船の来航に怯えているのだ。この比喻では分らない。はつきり書くとは黒船はUFOのことである。アメリカでは実に七〇パーセント以上の知識人がUFOとエイリアンの存在を信じている。まさに今の地球人にとって価値観や生活の異なるエイリアンの存在は、江戸人にとっての黒船に他ならない。もし彼らが本当に実在して、今後自分たちの世界に侵入してくれば、いったいどんな社会に貌現していくのかだれにも予測がつかない。その潜在的な怖さと不安がアメリカを病める国家に変えた。未来を担うべき世代であるはずのミューカスやスピンバークは早々と未来を諦め過去に戻っていく。リドリー・スコットやジョン・カーペンターはモンスターと戦う暗い未来が想定できない。我が考えうる以上にアメリカ人はUFOを現実としてとらえているに違いない。八千万人近くが熱狂して眺めたというTVドラマ『V』はSFの世界ではなく身近な問題だったのだだろう。人々は未来を忘れた。たその日をのを楽しむことでしか生き延びていけなくなった。だれもが待ち望む明日なども、いや幻想に過ぎない。そこで血だ。血だけが恐怖を忘れさせてくれる唯一の特効薬なのだ。血にどっぷり身を浸らせていれば恐れも消える。幽霊になつてしまえば幽霊も怖くない。逆説めくが、人殺し場やマシンガン発射させている瞬間だけ死の恐怖から完全に解放されるのである。攻撃こそ最大の防衛になる。襲撃されればなだつたSF映画の世界で『エイリアン2』や『V』が反撃を開始したのは、そういうアメリカ人の不安が裏返しになつたものと解釈している。

◆その不安は間もなく日本にも上陸するだろう。いや、すでに若い世代には浸透しているのかも知れない。彼らは物心つかない頃にノストラダムスの洗礼を受けている。一九九九年以降の未来など存在しなと断言する若者もたくさんいる。それが根底にあるから、彼らも二十歳前後の若さで過去にこだわる。こだわることで短い人生を二倍にしようと思死なのだ。未来への願望の持てない世代の悲しみなど、大人には分かりっこない。

◆彼らがスプラッターに夢中になつたりゾンビを熱望する底辺には諦めと希望の両方が隠されている。未来を





新英名十八衆句



末廣筆

赤ずきん

Little Red Ridinghood

by Maruo

●これは恐らく不朽の名作として残るのではなからうか。赤ずきんの物語に隠された欺瞞をこれほど的確に、しかも直接的に描ききった人間などいない。グロテスクでありながら可愛らしささえ画面に漂っている。花輪和一が月光仮面を描き、丸尾末廣が赤ずきんを描いたことと新英名二十八衆句は意味を持った、とすら私は思う。血なんてこわくない。女の子だもん」という言葉は女性に生理のあることを語まえているのだ。そこにも彼の視点の確かさを覚える。自分の立場も分かっていない赤ずきんに「おじちゃんどうもありがと」とすがられたら、だれだって「まいったなあ……」だ。泣かせる絵である。

● Most likely this story will live forever as a masterpiece. There is no one else that could draw the deception in "Little Red Ridinghood" as accurately as Mr. Maruo. Even though it's grotesque, it even has some cuteness as can be seen in this picture. I thought "Eimei Nijūhasshūku" had some meaning now because Kazuichi Hanawa had drawn Gekkōkamen and Suehiro Maruo had drawn Akazukin. The phrase that states "I'm not scared of blood because I'm a girl," is based on the fact all women have periods. Even based on this point we could accurately see his view point. An Akazukin who doesn't understand her position would cling to someone and say "Thank you uncle". Anyone would say "What am I going to do." It's a sad picture.

新英名千八衆句

赤ずきん

血なんてこわくない女の子だもん

丸尾 未廣筆

狩人のあじさんが
狼のおなかを切りやくと
中から赤ずきんちまんが
出てきました
こうして赤ずきんちまんは
めでたく助けられたの
でした

あじさん
どうも
ありがと

まいった
なあ...



新英名二十八衆句

舌切雀 突張娘

鉄

雀

チヨキン
チヨキン
チヨキンナア

舌

隣

婆

丹羽国ニ住ム無職、倉
婆カニ八十歳ノ鉄ッテ
イタ雀ノチヨキンニ
歳カニノ刻頃突張娘
持ッテ見セシ、隣家
ノ遊女ニサシテ、隣家
トヒカカテ舌ヲ切ッ
テ履根ニ逃ゲタ。
ノ裏ノ竹ヤバデヒロワ
レ、糊ヲドシヤブラレ
ラレテカワイカラレテ
イタガ、最近血圧が高
ク、モモヤラ、吹キト
バスツモリデ今回ノト
行ニオヨンダモノト
ケイサツデハミテイル

けつろり華

和一筆

舌切雀と突張娘

Shitakiri Suzume &
A Girl Who is Acting Tough

by HANAWA

● When I was shown this picture, it stunned me. I think anyone would get stunned. If some people are particular about words, they should have noticed something from the content of this story. This story should have been named "Shitakirare Suzume" (Sparrow whose tongue was cut) instead of "Shitakiri Suzume" (Sparrow who cut the tongue). The latter sounds like the sparrow committed the crime. In "Jack The Ripper," Jack was the name of the criminal and not the name of the victims. There is not much blood shed but the uniqueness of imagination shines. However, to select this title for this cruel picture, I am amazed with his intelligence. It's probably coincidental but the kanji "Suzume" (Sparrow) is also read "Jaku". The sparrow might say "I'm the Japanese Jack The Ripper."

●この絵を見せられた時は唖然とした。だれもがそうだろう。言葉にこだわる人間であればとくに気がついてしまったことだ。物語の内容から考える限り、あれは「舌切られ雀」と名付けられるものである。「舌切雀」とあるからには、雀が犯行の主役のはずなのだ。ロンドンを震源地とさせた「切り裂きジャック」にしても、犯人がジャックで、決して被害者の名前ではない。血こそ少ないが、発想のユニークさで光っている。しかし、残酷絵にこの題材を選ぶとは、なんとも呆れ果てた才能としか言えない。偶然だろうが「雀」は「じゃく」と読む。日本の「切り裂き雀」たまたまおいらのことだ。

●「へび少女」と耳にするだけで体を震わせる女の子たちがいる。それほど怖い名詞にまで成長しているのだ。煤図かずおは本当に凄い。丸尾氏も熱烈なファンだと話していたが、私もその一人である。「イアラ」や「烈眼鬼」はマンガの域を越えているし『漂流教室』なんて十回以上は読み返した。近頃は『神の左手悪魔の右手』に驚嘆している。あんなとてつもない話をどうやって思い付くのか。解説とは離れてしまったが、それだけに煤図かずおの世界をあらためて作品化するのにはむしろいいだろうとハラハラしていた。しかし、やはり丸尾末廣も只者ではない。原作とは別個の新たな恐怖を描いたのだ。パロディに落とさずリメイクするのは至難の技である。

● There are girls that tremble with fear when they hear the word "Hebi shōjō" (Snake girl). This term has become a fearful noun. Kazuo Umezu is really amazing. I heard Mr. Maruo made big fun of him, so do I. "Iara" and "Retsuganki" (The devil who wished intensively) has passed the limits of taste in comics. I have read the "Hyōryū Kyōshitsu" (the drifting classroom) over ten times. These days, I really like "Kami no Hidarite, Akuma no Migite" (God's left hand, Devil's right hand). How can he think up such absurd stories. That's why I was worried about putting Kazuo Umezu's world on canvas. However, Suehiro Maruo is not an ordinary person. He had painted a new kind of horror based on the original. It's difficult to remake it without parody.

新英名三十八衆句

へび
少女

私もいつかは蛇になるだろうか？

洋子さんはこの頃
おかし
ねと遊んでくれないし
一緒に学校へ行そ
くれない
本もかしてくれない
好きな男の子ができ
たのかしらう？
この雨の日のわたしは見てし
まふの
洋子さんはカエルも食べていた
とてもおもしろうにムシムシや
洋子さんは病気になるだ
あんな病氣絶体になら
ないんじゃないかしら
でもわたしはこの事も
誰にもしゃべらない
特に男の子には
ね

だって
ねと洋子さんは
はとても
仲良しなんだ
もん

丸尾
末廣華



新英名二十八衆句

悪魔の
トリル

張りつぱ 瓶の中に 幽霊が 入り

灯

話

瓶



友達がとバラバラにして、それとを重たに
する。その友と大きく
引と伸はし。

衛生博覧會

全園を巡って歩きます。
友達の足元の明はいつも勢のすば
たや群らがり、家に帰る、学校に行き、友達の
話をします。こんなまを晴らしにひか
あつてしまふ。友達は友達のいまを
でし、でも死んでから友達のを分
てくれる。友達の勢を分ける。
ノギヤリ、斧、バケツ、薄暗い灯り
の下で、私はつくりとノギヤリを
挽き続けました。

挽き続けました。

肉



● This scene is adopted from one of my essays. Today the word sanitary exposition became a dead word. It was an exposition that displayed things like wax models of genitals, pictures of dead women who were raped. And other grotesque stuff hiding behind the popularisation of sanitary beliefs. I remember I looked at these things fearfully when I was a child. I was strongly impressed by the pictures of a child's dead body which was in a suitcase. I wrote this essay based upon this vivid memory. The plot of this story was that the main character was gazing at a body of a handsome boy who was in a suitcase believing it was a wax figure but it was actually a real dead body. Since the picture he had drawn was exactly that of the image I had in my mind so it scared me. It could only be said that this is a great joy as an author, to find that my exact image can be found in a real picture.

和
二
筆

梶間友彦

Tomohiko Kajima

by HANAHA

●これは私の小説から採用してくれたもの。衛生博覧会と言っても今では死語のようになってしまっ
たが、衛生観念の普及を隠れ蓑にして、実際は性器の燐模型を飾ったり、暴行された女性の死体写真
を見せたり、グロテスクが売り物の見世物である。私も何度が子供の頃に怖々と眺めた。特に印象
深いのがトランクに詰められて捨てられた子供の死体の写真だった。その鮮烈な記憶をもとに小説を
拵えた。筋立ては主人公が蠟人形だと信じて見つけたトランク詰め的美少年が、実際は本物の死体だ
ったというものだ。頭にイメージしていた場面と松が完全に一致していて空恐ろしい気分がさえる。
作者冥利としかないう機がない。

●一九一九年から二四年までのドイツ、ハノーバー。この町に恐怖の連続殺人が発生した。被害者総数二十八名。すべて美しい青年ばかりで、殺害方法は喉笛を噛み切るといふ残酷さ。犯人はフリッツ・ハールマン。四十過ぎの典型的同性愛者。彼は殺した若者の死体を刻み、豚肉と称して実際に売りさばいてもいたのである。戦慄の「人肉工場」現代の吸血鬼」と人々は恐れ、犯罪史上に名を残している。それ以上の説明は必要なかろう。絵が雄弁に細部を物語っている。描写にも麗れるが、手柄は上に書かれた数を明だ。よくもまあハールマンの心情をとらえたものだ。色はおへど血に濡る男」も大秀逸。萬流ゴビエ塾でも上位入賞間違いないし。

● From 1919 to 1924 in Hannover, Germany, there were successive murders that occurred which held this town in terror. The number of victims totalled twenty-eight. All were handsome young men. The murderer was Fritz Hahlman, who was a typical homosexual. He killed his victims by biting their throats open. He chopped up the bodies of these young men that he had killed and he was actually selling their remains saying that they were pork. People called him "the human meat factory" or "modern time vampire" and feared him greatly. He left his name on the list of history of criminals. I don't think I need to explain anymore. This picture tells the whole story down to the smallest details. I was impressed by the picture. But more than that, I was impressed by the copy above it. It captured Hahlman's feelings really well. The copy "A Man Who Got Soaked In Blood" was excellent.

新英名三千八百句

フリッツ
ハールマン

色はにあへど血に濡る男

俺の軒には四つの肉屋と三つの葬儀屋と二つの淫売宿と
二つの学校がある 数へて喰おう 俺の喜びあいつの苦痛

ロン ワンダフルボーイもつかまへて

ツー 痛状無類の人殺し

スリー すりつぶした肉の色

フォー フォトグラフに残そうか

ファイブ ファックはほんの皮のロビ

シックス シックスナインもやりません

セブン セフカも流しだ赤い

血だ

エイト エイエイオー

と飲み
下だし

ナイン 泣いて喜ぶ

テン 二の俺は

天國行き

だ

いそ行かん!

力尾
末廣筆



新英名二十八衆句

都井 睦雄

あみたんらん
あめあみたんらんれいひな

おばやん勘忍しそつかあさい
睦雄は神様になりましたけんろう

神

都井睦雄 遺書

愈々死するにたり 万々書留申します
決行するにやとてうたがう

ああ祖母にはすみませぬ二歳の時からの
育ての祖母 祖母は殺してはいけなかつた

と後に背すぢばんをきいてつゝあはした事を
行なふ事に死ねる様にと思ふたらあまみじの

なことをしたまことにすみません 涙涙だ
すみません涙が出るばかり 姉さんにもすみません

すみません下さい つまぬあでしたこの様なことをしたから
自分のうらみがらは言ひなれ 夫してはかたして下されなことを

よるしい 野にうかれは本望である 昭和四年間の社会の冷胆圧迫
にはまことに泣いた 親族が少く愛ときよさの儚の身にとて少い

と泣いた社会にすみみよりの強い人 極悪者に同情すべまだ
大膽弱いのはこりた今度強い強い人に生れてこよう 実際僕も不幸な
人生だ 今度には幸福に生れてこよう



ハ
ア
ア
ア

和筆 都井睦雄

Toi Mutsumi

by Hanawa

● Seishi Yokomizo's "Yatsuhaka Mura" is based upon the incident that occurred in Okayama in the 13th year of Shōwa. Recently, Akira Tsukuba and Nozomu Nishimura wrote about it with great interest so it became a popular incident. "Ushimitsu no Mura" is the movie version of this incident. It's amazing how many people were killed. They were either shot to death or strangled to death. The number killed totalled 29. Even though it was a small village, close to half of the population of this village were killed in one night. I don't think this record could be broken for a while. The reason why the murderer killed so many people was explained as "Mutsumi Toi was a persecution mania", but we will never know the truth because he also killed himself. The reason this incident was not well known was that the military restricted publicity regarding this incident. They said people would have panicked if they had heard of such things like this. Kazuichi Hanawa's sense was sharp when he said "Mutsumi became a God".

●横溝正史の『八つ墓村』は昭和十三年に岡山で発生したこの事件をモデルにして書かれたものである。近年では筑波昭や西村望が深い関心を持って書いたのでポピュラーな事件になった。『五三つの村』はその映画化。なんと言っても殺した人数が凄い。射殺、斬殺合わせて二十九人。小さな村とは言え、その半数近い人間が一晩で殺されたのだ。この記録は当分破られそうにない。原因は極度の被害妄想と説明されているが、都井睦雄本人も自殺してしまったので真相は不明だ。この事件が世間にあまり知られなかったのは、軍部による報道規制があったからと言われる。人心をいたすに刺激するばかりだとの判断からだ。睦雄は神様になりましたけんのう」と叫ばせる花輪和一の意識は鋭い。

一柳展也

Nobuya Ichiryū

by Maruo

● I don't really want to explain this. Anyone can understand this picture at a glance. The only thing I can say about this picture is that this picture tells much more than all those criticisms which were written about "Metal Bat Incident" caused by Nobuya Ichiryū. I have never experienced Nobuya's madness and sadness directly like this before. Even Nobuya himself will burst into tears when he sees this picture remembering the hardship he went through. I feel the greatness of this picture again. Even though this incident happened in 1980, the shock I got from this picture revives all those feelings as if it occurred yesterday. I was impressed by the phrase, "This is not a thing of the other world." An average man would simply say, "this is not the thing of this world," and he would want to flee from the problem.

●これはあんまり説明したくないなあ。見ればだれにも分かる絵だものね。ただ、言えることは、これまで一柳展也の引き起こした金属バット事件に対して書かれたすべての評論よりも、この一枚の絵が多くを物語っているという点だ。展也の狂気と悲しみがこれほどストレートに伝わってきた経験はかつてない。展也本人でさえ、これを見せられたら辛くてしくしく泣きだしちゃうよ。絵の凄さをあらためて感じた。事件は昭和五十五年のことなのに、この衝撃はまるで昨日のことのように鮮やかに蘇ってくる。これはあの世のことならず、というコピーにも唸った。普通なら、この世のことならず、とあっさり躲けて逃げたいところだ。

新英名二十八衆句

一柳展也

これはあめ世の事ならず



丸尾 未廣筆

球を打たずに頭を打っちゃった
天にも地にも
ただ独人
ほう山鳥の声
聞けば父かと思ふ
母かと思ふ

親はあつても
親知らず口の中は
焼けるよう
歯医者も休みだ
眠れない
ズキズキ
ズキズキ
ズキズキズキ
ズキズキズキ



新英名二十八衆句

総門谷

ヌルヌルと人か手をすり 足もすり

ああ、背中がつかみだす。

人造人間はムンクルだ。は…早く医者を呼んでくれ！

救急車を呼んだ！ ああ、早くしてくれ！ ああ、何とあ

しとれ！ 見殺しにしないでくれ！ 早く手を止めてくれ！

ど…どうすればいいんだ！ こ…こんな夜に、いあうされてしまうて！

ああ、こうつ！ そんなに血をためるんじゃない！ ばかぢや

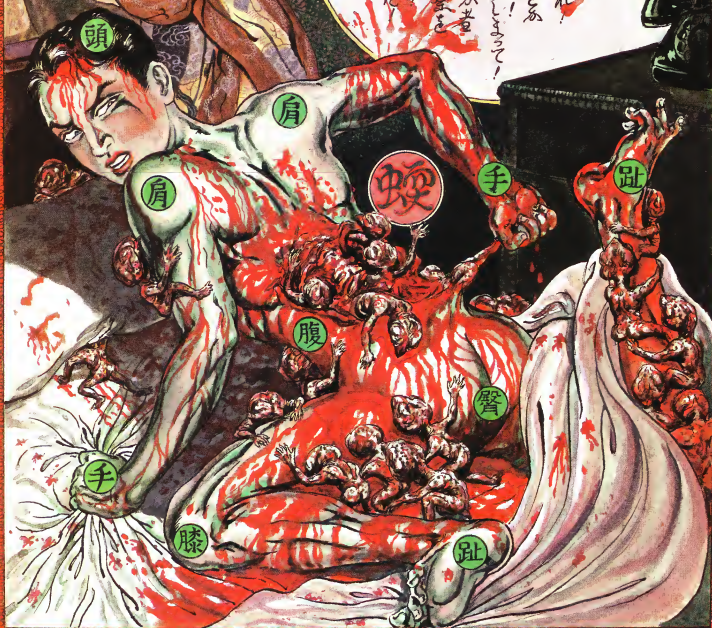
ああ、ううっ！ いやだ！ 早く、百十番してくれ、救急車を

よんだ！ ああ、まで百十九番を！ 医者だ、医者！

たのむ！ 早くしてくれよ！ 一刻とあらずらん

ああ、まっさぐらにすれはいいんだ。

となく医者だ！ 早く！



和一筆

ホムンクルス

Homunculus

by HANEWA

●これも「悪魔のトリル」と同様に私の書いた『総門谷』から選んで貰ったが、ホムンクルスそのものは私が捏造した怪物ではない。偉大なる錬金術師パラケルスが可能性を説き、また実際にクフシュタイン伯爵が創造に成功したと言われる人造人間なのだ。瓶の中に暮らし人間の生き血で培養された。頭が異様に大きな小人で、予言能力を持つ。荒唐無稽な話にも思われるが、現在のクロール再生を考えると、笑い飛ばすこともできない。フランケンシュタインなどよりも通かに現実味のある存在なのだ。実見記も残されていて、それには頭の形はトカゲに似ているとある。不気味な生き物だ。

● Homunculus is chosen from my work. "Sömondani", like the devils from my "Akuma no Trill". Homunculus itself is not a monster that I created. It's a mechanical man that great alchemist Paracelsus had explained the possibility of this monster and count Kuhustein actually succeeded in creating it. It lived in a bottle and was cultivated with human blood. It's a dwarf that has a huge head and has the power of prophecy. You may think of this as an absurd story but we can't laugh at it when we think about the production of clones these day. It's more realistic than Frankenstein. Homunculus is written down in a record as a dwarf that has a head shaped like a lizard. It's a spooky living thing.

● Even when I say, "Well, I don't know." it's not a mystery answer. I don't understand the psychological make-up of Mr. Maruo. But I'm not saying that he is strange. Since he draws this unexplainable world so clearly. The confusion went somewhere. To tell you the truth, at the beginning, this was the different picture. The first picture he drew was really easy to understand. In his first picture, Ranpo was in his library in front of his writing pad and a circus crown was jumping around him and a devil was looking over his shoulder. However, within the last few minutes, he changed to this picture. Maybe Mr. Maruo became one with Ranpo and Ranpo's image might have come out through him. However, Mr. Maruo has really great artistic sensitivity to pick Ranpo himself as a topic, instead of something from his essays.

末廣筆

江戸川乱歩

Ranpo Edogawa

by Maruo

● うーむ。分かんぞ。と言っても謎の答えてはない。丸尾氏の精神構造が分かんのだ。と言っても異常だと申すのではない。こうまで明快に不可解な世界を描かれてしまうと、混乱も混沌もどこかに行ってしまう。読者に打ち明けると、最初は別の絵柄だったのだ。書齋で乱歩が原稿用紙を広げていて、そのまわりにサアカスのピエロが跳ねていたり、悪魔が背中から覗きこんでいたり、非常に分かり易いものだった。ところが直前になって彼はこの絵柄を変更したのである。乱歩と一体化して乱歩自身の幻想が噴出してきたのかも知れない。だけど、乱歩の小説からではなく、乱歩そのものを題材にするなんて、やっぱり不思議な感性だなあ。

新英名二十八衆句

江戸川
乱歩

なぞが呼ぶなぞどんななぞ？

次の問ひに答へよ

屋根裏を散歩したのは
乱歩か？

押絵と旅する男は何処
まで行くか？

火星の運河は何マイルか？

人間椅子のすわり心地は快適か？

餌差宗助の身体的特徴は？

エドカワランプとは誰の偽名か？

レンズ鳩好症とはどのような
病気が？

暗黒星は銀河系に属
するか？

少年探偵団に少女はいる
か？

二十面相の変装は性別を
こへたか？

陰獣の足は何本か？

平井太郎



丸尾
末廣筆

新英名二十八衆句

雨月物語

祝言

吉備津の釜で虫かきをして

く
うな
く
地獄

空

五

空

朱

朱符

列衣



31

朱竹

さいはひと神に祈るにて巫子
 祝部を召し集めて御湯をなて
 まつる。
 さてそもも当社に祈りする人
 数の秘物を供へて御湯をなてまつり
 たるを祥出しと祥さよふ。
 巫子祝詞とはり、湯の沸上るに
 およびて、よき祥には釜の鳴る音
 牛のはかるみむとらし、あしとな
 釜をなむし。
 これとて古備津の御釜祝といふ。

大吉
急急令

和筆

磯良と正太郎

Isora & Shōtarō

by TANAKA

●吉備津の釜神事とは、大きな釜に湯を沸かし、その煮立つ音によって吉凶を占うものである。吉ならば釜は牛の吠え声のように大きく響き、凶ならまったく音がしない。音がしないことは有り得ないからこそ凶なのだ。ところがこの二人の場合はそれに当たった。結婚などしなければ良かったのである。案の定、二人には不幸が付き纏う。夫は愛人を作って岡山から逃亡し、妻は病気で亡くなった。怪異がはじまったのはそのときからだ。妻の亡霊が現われて夫を冥界に連れ出そうとする。必死であらう夫と怨念に燃り固まった妻の目、引、引、引、の文字がこれほど迫力を持って使われた例を私は知らない。

● The ceremony called "Kibitsu no Kamashinji" is a method of fortune telling by boiling water in a big pot. The good or bad luck could be told by the noise that is made by the boiling water. If it's telling good luck, the water will make a sound like a cow's cry, and if it's bad luck, it will not make any sound. Since there is no way that boiling water will not make any noise it's considered to be bad luck. However, to this one couple it happened. They shouldn't have got married. As I thought so, bad luck followed these two. The husband ran away from Okayama with his lover. The wife died of an illness and that's when strange things started to happen. The spirit of the dead wife appeared and she was trying to lead her husband to the world of the dead. The husband resisted with all his power, and the wife's eyes were filled with resentment.

末廣筆

アドルフ・ヒトラー

Adolf Hitler

by Maruo

● There is no need to explain Hitler. Most likely, there is no other human being who is as well-known as he. All men must have dreams about becoming Hitler even though his beliefs and actions might have been different. Hitler will continue to live on as a teacher of human being's darkside. I don't know the position that is taken by Suehiro Maruo's feelings toward Hitler. However, I was overwhelmed when Hitler declared, "I'm as beautiful as I have killed." Please don't feel like you understood Suehiro Maruo simply based on this one sentence. He writes phrases by gazing deeply into things. He is only trying to use Hitler to express his own feelings toward this miserable world. The target of his anger is not the Jews but us.

● ヒトラーについては説明も不要だ。彼ほど知名度の高い人間は恐らくいない。思想や行動は別に男ならだれでも一度はヒトラーになる自分を夢想したはずだ。ヒトラーは人類の反面教師として今後も生き続ける。丸尾末廣のヒトラーに対して抱いている感情などの位置にあるのか私にも分からない。けれど「殺したぶんだけ私は美しい」と言い切らせる凄さには圧倒される。単純にこの文章だけでも丸尾末廣を理解した気持にならなくてくださいよ。彼はもっと裏を見据えてユビイを書いてるんだから。やるせない日常に対して彼はヒトラーの「ロよせ」を試み、ヒトラーに語らせているだけなのだ。怒りの目標はユダヤ人ではなく我々にある。

新英名二十八衆句

アドルフ
ヒトラー

殺したぶんだけ私は美しい

私は血が嫌いだ

肉や腸も嫌いだ あらゆる形の

はつきりしないものを憎む

私はあいつらが嫌いだ あいつらは

欲深い金利主義者だ 汚れた台所

をはいずる不快なナメクジだ

緒君 あいつらを智栄あくれの恐竜

かなんどのようにこの地上から

一匹残らず絶滅させよう

グロンドと青い瞳の

千年王国を

つくろう

だが、つ言て

あく、あいつら

の血でこの

美しいゲルマン

の血を汚しては

ならん

私の喰べる

キヤベツが

あいつらの

血を吸って



丸尾
末廣筆

新英名二十八衆句

阿部 定

御茶漬けで

頸と締めたり 緩めたり

オス

虚

無

力

メス

吉蔵サマハ私ガ
ケノモノヨ誰ニモ
ワタスモノゾスカ。

敷布ニ「定吉ニ入キリト
書イタシネ。アッソフソフ

吉蔵サマノ左太股ニモ

「定吉ニ入ッテ刻シデ、左腕

ニモ「定」ッテ刻シデマゲヨウ。

コウシテアゲレバ好女多感ナ

吉蔵サマモウレシカッテ

死ンデイクワ。オホホッ。

昭和十一年ノ事ヨネ。

定！てめえって
やつはどつこいふ
りようけんしてるん
だよ。もっと
まじめに力を入れて
ノドがキエウという
は、神めてくれ
よう。



和筆 阿部定

Sada Abe

by Hanawa

●あれ、こんなに新しい事件だったか、と戸惑った。なんだか高橋お伝や花井お梅という悪女とイメージが重なって明治の女とばかり勘違いしていたのだ。そう言えは彼女を扱った『愛のコリーダ』にはラジオやビールが映っていた。でも事件そのものは前近代的なものだ。今では男の性器を切り取ったって世紀の猟奇事件と騒がれるかどうか。悪魔が憑いたとかで死体を細かく切り刻んだり、食べたりする時代なんだから。まるで御飯のおかずのように無造作に置かれているのが凄いな。『オス』とか『メス』と二人を冷たく扱っている花輪氏の視点にも注目したい。

● Was this incident this new? Her image has doubled with wicked women like Oden Takahashi and Oume Hanai so I thought of Sada as a Meiji woman. Come to think of it. In the movie "In the Realm of Senses", there was radio as well as beer. But the incident itself seems pre-modern. Today, even if someone cut off man's genitals, no one will make a big deal about this and say "it's the most bizarre incident of the century." This is the age when murderers cut up bodies into little pieces and eat them saying the devil made them to do it. We should pay attention to Mr. Hanawa's view point when he coldly handled themes "male" and "female".

● From Akiyuki Nosaka's short story "Tarachine Shinjū". It's a sad story about a son and his mother who died of cancer. The son loved his mother so dearly. When he was left behind by himself after his mother passed away, Shun-ichi cut open his mother's stomach and ate the internal organs that had cancer cells hoping he would die of cancer also. I, myself loved Nosaka's extraordinary sadness in "Hotaru No Haka." However, I was struck by Suehiro Maruo's kindness to pick "Tarachine Shinjū" out of all the works of Nosaka. He has unique point of view toward cruelness in the material he chose, like "Sleeping Man". "Little Red Ridinghood" and "Marc Bolon". It could be said that this is his achievement to have this picture in this book or paintings. If he didn't read deeply into Akiyuki Nosaka, he wouldn't have got where he has today. He is amazing for his young age.

●野坂昭如の傑作短編「垂乳模心中」より。捨ててなくなった母親を慕うあまりに、たった一人取り残された息子の俊一が母の腹を切り裂き、癌細胞に冒された内臓を食べて自らも死を望むという切々とした小説である。個人的には火垂るの墓の途方もない悲しみの方を愛しているが、これを野坂作品から選び取った丸尾末廣の優しい感性には激しく胸を衝かれた。眠り男といい、マーク・ボランや赤ずきんといい、彼の選ぶ素材には残酷さに独特の視点がある。この画集にこの一枚が加わったことは、やはり彼の手柄と言ってもいいだろう。野坂昭如をよほど読み込まないと、ここまでは辿り着かないぜ。まったく若いのに怖い男だ。

新英名三十八衆句

俊一

はらわたに母のしみこむ血の晚餐

胃は緑
腸は黒
肺は赤
心臓 肝臓
なめらかに
腎臓 脾臓
あざやかに
奇妙な果実
のかわりも嬉し
母の臓腑の
なつかしや
母がこの身をはら
んどようにこの身に
母をばらむべし
孝行の年本は数
あれど後の世までも
孝行の鑑の
たらちね心中



丸尾
未廣筆

新英名二十八衆句

月光仮面と分家嫁
げつこうかめん ぶんけのよめ

祭禮

太鼓の音に合わせて一振
また振／唸る草刈鎌

祭禮

朝から賑わう笛太鼓
今日は目出たき村祭り
お許し下さい鎮守様
世間てんもかえりみず神前の
農地を汚血で汚す所業に
出た分家の嫁

祭禮

御燈明に照
らされて刃
キラキラお
星様

祭禮

若旦那

ワタシハ
コウイウノ
ダメナノ

那様は
血を出

す肉も出ずいかに正義の
味方といえども、このよ

うなふるまひ
には口も出せぬ手も出せぬというこどよ。

祭禮

うなふるまひ
には口も出せぬ手も出せぬというこどよ。

凶狂

死



和一筆

月光仮面と分家嫁

Gekko-Kamen (Moonlight Rider)
& A Branch Family's Bride

by HANAWA

● こういう作品に説明を加えると、こちらが損をする。いやあ、驚きましたね、笑いましたね、凄いですねー、ていのた。月光仮面における正義の境界などと分類をはじめても仕方がない。これには原作者の川内康範先生だって嘆きたしちゃうだろう。花輪マンガには時々こういう、とてつもない笑いがあふ。『護法童子』だって底辺を支えているのは笑いだ。オジサンシヨウガナイネ『ワタシハコウイウノダメナノ』屈間の皺を書き込むことによって月光仮面の苦笑と苦笑が伝わる。それにしても「分家嫁」とはただならない登場人物だ。

● If I write an explanation to these works, I loose out. All I have to say is "Wow, it surprised me, it made me laugh, and it was wonderful." There is no use to start classifying the limit of Gekkō-Kamen's righteousness. If I did this, even the author Kōhan Kawauchi himself will burst into laughter. From time to time in Hanawa comics there are these kinds of absurd laughs. Even in "Gohō Dōji" what's supporting the base of the story is laughter. By drawing in the wrinkles on Gekkō-Kamen's forehead, we can see his bitter smile. Moreover, "A Branch Family's Bride" is not an ordinary character.

末廣筆

永田洋子

Hiroko Nagata

by Maruo

【 46 】

● It's already been seventeen years since "The Asama Mountain Villa Incident", which glued us to our T.V. sets. During the climax of this incident, February 28, 1972, T.V. stations were broadcasting the development of this incident for nine hours straight. The audience rate was 98.2%. Probably this incident had the most eye-witnesses among all Japanese criminal incidents in history. A chill ran down my spine when fourteen corpses were found in Myōgi-Mountain due to the confession of those who were arrested. Hiroko Nagata, who had lynched people under the name of generalization, became a first-rank wicked woman as a result of this incident. Compared to her cold-heartedness, Sada Abe is nothing. Anyhow, this was a very dreadful incident. I still feel sick. The picture and the essay are very powerful.

●我々をテレビの前に釘付けにしたあさま山荘事件も、すでに十七年も昔のこと。事件のヤマ場となった昭和四十七年二月二十八日はテレビが九時間ぶっ通して攻防を中継し、視聴率はなんと九十八・二パーセント。恐らく日本史上最大の目撃者がいた事件だ。その後逮捕された彼らの目白によって妙森山中から十四名の死体が発見されたときはゾッと背筋を凍らせたものだ。総括という名目でリンチを行なった永田洋子はこれと悪女のトップに立った。彼女の非情さに較べると阿部定なんて醜んでしまふ。それにしても暗い事件だった。吐き気がまだ続いているよ。絵も文章も相当な迫力だ。

新英名二十八衆句

永田 洋子

ノーマー・マーマー

ミウてめえ！ 死んだのか？

あたしの名前をいってみろ

てめえのようなハンパな奴は

あたしがカッて

入れてやる

あたしは

高校の時

出目金病

になったん

だぞ

どんなに

くやしかった

か

あたしはチヤラチヤラした奴も見ると

はらわたが煮へくりかへるんだ

せの中はどうみたってあたしの為にはない

あいつらだよ あいつら！！

ちくしょう殺してやるてめえ逃げ道

ないぞ あたしにもないぞ

あたしの名前も云ってみろ！

丸尾 未廣華



新英名二十八衆句

白虎隊
の最後

夏草や 飢盛^{いも}山でさようなら

ああ、鶴ヶ城が
燃えている。

みんな死のう。

ああ、そうしよう
さあ死ぬぞ！

さうし死んでやるぞ！

腹切腹切腹切腹切腹切腹

「だくと拙者は死なないよ
どうしても死ぬのは
いやだ！ 生きたいんだよう
すくすくど先まで
死ぬ時まで生きろんだ。
ではごめん！」



炎城

和一筆

白虎隊

Byakkotai

by HANEWA

● The tragedy of Byakkotai does not lie in the fact that all of those who committed suicide were all under seventeen years old. The tragedy lies in the fact that they have mistaken the fire beneath Wakamatsu Castle as the fall of the Castle. There were close to twenty soldiers there and none of them doubted that they were mistaken. Were they that much exhausted mentally? No, it must have been that they didn't even have one ounce of fighting spirit left due to the battles which were fought in the rain storms on top of a lack of sleep and hunger. I, myself have actually looked down on Tsuruga Castle from Imori mountain, where these boys have committed suicide. It was close enough to see what was going on so there is no way they would have mistaken it. Probably for those boys, death was the easy way out. Even if they had lived longer, what would they have had to wait for them? Probably only humiliation and agony. On those boys' faces even pleasure and tranquility can be seen.

● 白虎隊の悲劇は切腹した全員が十七歳以下の少年だった点にあるのではない。若松城下に燃え盛る炎を落城と勘違いしたところに発している。二十人近い隊員たちがいながら、だれ一人として疑わなかったのだから、神経をよほど消耗していたのだろうか。いや、豪雨の中の戦いや、睡眠不足と空腹が重なって、もはやひとかけらの戦意すら失っていたに違いない。私も実際に彼らの自刃した飯盛山から鶴ヶ城を見下ろしたことがある。決して見違える距離ではなかった。死は少年たちにとって安息だったのかもしれない。生き長らえたとして彼らにながかったのか。恐らく屈辱と苦悩だけが待ち構えているだけだ。解脱した少年たちの顔には快楽と安らぎさえ浮かんでいる。

末廣筆。

ピーター・キュルテン

Peter Kürten

by Maruo

● Peter Kürten who was feared as the "Monster of Düsseldorf" by the German people, killed 12 people in five years starting from 1925. After he was arrested he confessed to three murders. He also bragged about more than twenty attempted criminal offenses. The doctor who was asked to judge Peter's psychological state, called him, "King of the Degenerates." The doctor called him this because Peter didn't feel any guilt towards the crimes he had committed. However, by looking at his picture, he doesn't present the brutal impression that his crimes would suggest. He has a gentle look on his face that resembles Anthony Perkins of "Psycho". Also, he was a hard worker and had good manners. So he was well liked by his co-workers. Therefore, he is a "degenerate". He mostly murdered people by strangulation. For this reason, this picture is not so realistic. It could be said that this picture shows how he wanted to kill. This is a ghastly scene. Due to this picture, Kürten is guaranteed to be even more well known.

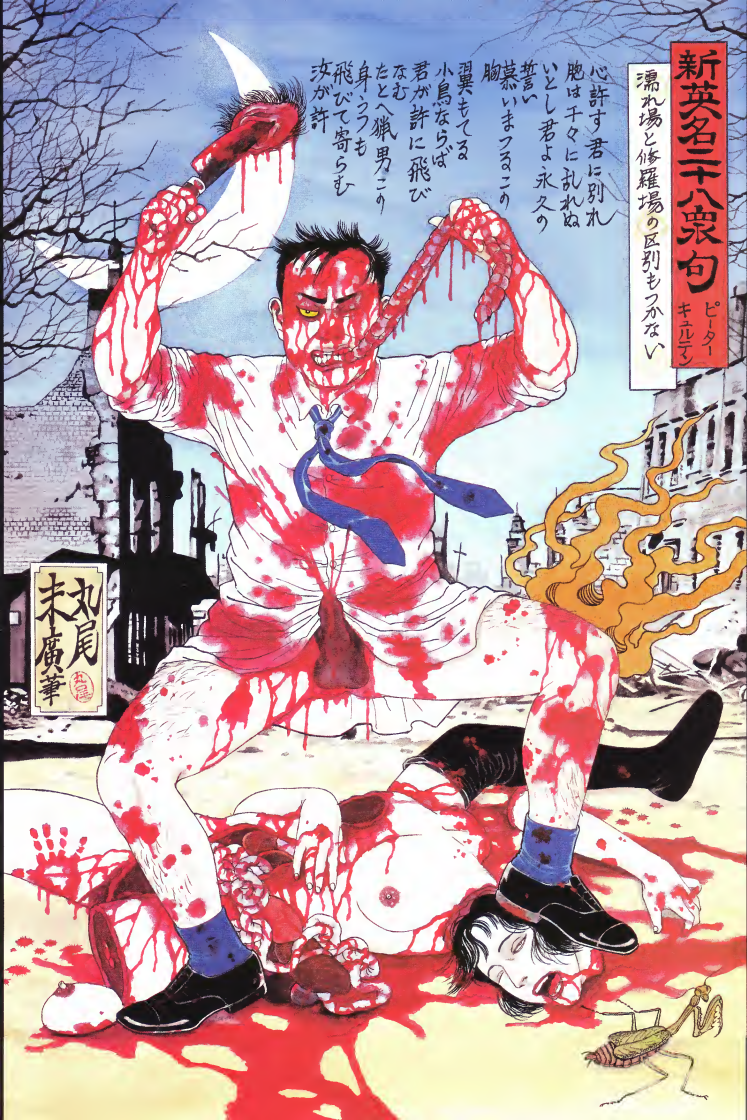
●一九二五年からの五年間に十二人の男女を殺害し「デュセルドルフの怪物」と恐れられたピーター・キュルテンは、逮捕された後に三件の殺人を告白し、未遂事件は二十を越えると言語した。彼の精神鑑定を依頼された医師はあまりの罪の意識のなさに「変質者の王」と呼んだほどだ。しかし、写真を見る限り、狂暴な印象はない。サイコのアンソニー・パーキンスに似た優しい面立ちである。仕事に勤勉で礼儀も正しく、職場の同僚からも等しく愛されていたのだ。それゆえの「変質者」なのだ。殺害方法も大半は絞殺だった。だからこの絵は現実ではない。むしろ殺害しながらも、そこまでやれなかったキュルテンの願望を絵に仕立てたものと言える。なんとも物凄く画面構成だ。これでキュルテンはもっと有名になること請け合いだ。

新英名二十八衆句

ピーター
キルデー

濡れ場と修羅場の区別もつかない

心許す君に別れ
胞は千々に乱れぬ
いとし君よ永々の
誓ひ
慕いまづるこの
胸
翼もてる
小鳥ならば
君が許に飛び
なむ
たとへ狼男この
身うつも
飛びて寄らむ
汝が許



丸尾
末廣華

和筆 富姫

Princess Tomi

by HANAWA

●言うまでもなく泉鏡花の傑作戯曲「天守物語」に登場する妖怪だ。この場面は姫路城の天守閣にいる姉の富姫のもとに、猪苗代の亀城にいる亀姫が土産として生首を携えて訪ねてきたところだ。サロメにも似た不気味さが漂っている。しかし、こちらは妖怪なのだから罪の意識はない。単に美味しそうなものとして首を眺めている。その上、鏡花は滴り落ちる血を「汁」とすら表記した。グロテスクを描くことが鏡花の目的ではなく、異界と現世との境を描くために生首を持ち出してきただけなのだ。その証拠に戯曲の後半は、爽やかな恋愛物語に終始している。花柳氏もそこまで見通して面白い画面を構成したのだろう。生首を持って踊る富姫に残酷性や狂気は少しも見られない。

● Needless to say, Princess Tomi was a witch that appeared in Kyōka Izumi's masterpiece "Tenshu Monogatari". This scene shows the time princess Kame from the Kame Castle went to go visit her older sister Princess Tomi who resided in the donjon of Himeji Castle. Princess Kame brought a head to Princess Tomi as a gift. This scene even resembles the spookiness of "Salome". However, since they are witches, they don't have any guilty feelings toward what they are doing. They are simply looking at the head as "something good to eat". On top of that Kyōka wrote the dripping blood as "sauce". His object was not to depict grotesqueness. But his object is to show the boundary of the other world and this world by using the head. To prove this point, the second half of this story is devoted to a love story. Mr. Hanawa has looked deeply into it and that's why he can't see any cruelty or insanity in princess Tomi who danced while carrying the head.

末廣筆

大久保清

Kiyoshi Okubo

by Maruo

●この事件の起きた直後、だから昭和四十六年の冬か彼をモデルにしたホルノ映画を見た覚えがある。筋は完全に忘れたけれど、一カ所だけ強烈に印象に残った。彼が女の子の気を引くために、せつせとフランス語の勉強をしているシーンだ。リンガフォンのレコードを繰り返し再生し必死でボンジュールとか練習している。それがなんとも鬼気迫る演技で、なんてこいつはこの努力を他に向けなかったのかと腹が立った。それを見たために大久保清のイメージは固定してしまった。ベレー帽といシルバシカといい、呆れるほど単純な男だが、どこか憎めない陽気さも持っている。それに娘たちはたがふからされたのだ。表面だけじゃなく男を見る目を養いなさいよ、と若い娘たちには忠告しておく。

● I remember seeing a pornographic movie which was modeled after Kiyoshi Okubo. The movie came out right after this incident had happened. I guess it was the winter of 1971. I completely forget about the story of this movie but one part remained as an intense impression for me. In this scene they showed Kiyoshi studying French really hard in order to get girls' attention. He played the linguaphone record over and over again to practice "bons jours" and other French words. I got upset thinking why he didn't put this effort into something else. After seeing this movie, my image of Kiyoshi Okubo was fixed. He is a very simple minded person with his beret and rubashka. However because of his cheerfulness people couldn't hate him. That's what deceived the girls who were killed by him. I would like to give the girls a piece of sound advice. "Don't just look at a man's surface, learn to look into him."

新英名三十八衆句

大久保 清

母親の悪口もほどほどに

丸尾 未廣華

丸尾 未廣華

お母さん、僕は今自分が生まれた時の事も
思い出しました。首にくい込んではロープの
思願はあなたの方陰から頭だけ出した
時の、成仁じによく似ています。
何ものにも傷つかないあなたの方肉は
なんて乳持ちが重たいのでしよう。
その上、産婆のシワだらけの手が
僕の頭をつかんだので思ひず
泣いてしまったのです。
あなたのかさい髪髪の毛のにおい
たるんだ下腹にじんば汗
なんでも知ってるという目

なまぬるいミルク
どうしてこんなイヤな事
ばかり思い出すのでしん
あなたガ死ぬ時、まくら元で
イヤミのひとつもいってやろ
うと思っていたのに僕
方がねんに死んでしま
うとは残念でなりませ
ん
さようなら



新英名二十八衆句

女殺し
油地獄

血を出して

油で死ぬ

長女
かき早く死ぬ
この園業野郎

ヤイ、手兵衛
ヨクモオッカサンヲ殺シテクレタネエ
コノ園業野郎、仇ヲトラセテモラフヨ
ウチヲ氣丈ナ三人娘ダヨ
油デヌルヌルシナカテ死ニヤカレヨウ
庭モ心モ暗闇ニ、打搦ク油、流ルニ
踏ミノモラカシ踏ミスベリ、無限地獄ニ
墮チヤカレヨウダ、
コレカラウチヲ氣丈ナ三人娘ドウ生キテ
イケバインダヨ。ミシナコノ馬鹿ガ
悪インダヨ、ソフタヨソフタヨマツタリ
ダヨ。
シナモンデスルシウチヲ極悪手兵衛ノ
野郎ヲ氣分ヨク殺シテシマッタナダヨ
ミアマ、良ヒ事ヨスルト氣持ナカイナ。

振

打

極悪人ノ兵衛

三女
ちね、うね、よい
はやくちねよへ

次女
これじゃあ、
男殺し油地獄
みたいだなあ

油

油

油

油

スルスル
ギトギト
ヌヌヌ
ドロドロ

和
筆

河内屋与兵衛

Yohē Kawachiya

by Hanawa

● I am going to write this down to avoid the misunderstanding that might be caused by looking at this picture. There is no scene like this in Monzaemon Chikamatsu's script. "Onna Goroshi Abura Jigoku," the original story ends when Yohē was arrested. Yohē was a very selfish man. For his own convenience, he killed the oil shop's Okichi who was a third person. It can be predicted that he will be given the death sentence after his arrest but I guess Mr. Hanawa couldn't assent to it. Mr. Hanawa had enlarged the story when he found in the original scrip that Okichi had three children. Yohē was a weak and irresponsible person like Mr. Hanawa said. We can try to test Yohē by finding a modern frame to his mind, and this is no joke. What is going to happen to those children who were left behind. The children are screaming. "He is only a bad criminal."

● 勘違いされないように記すと近松の原作にこの場面はない。物語は与兵衛の逮捕をしめくくられている。まことに勝手な男で、自分の都合だけを優先させて善意の第三者である油屋のお吉を殺してしまったのだ。逮捕されて死罪になるのは予測できるけれど、花輪氏は納得できなかったのだろう。原作に殺されたお吉には三人の子供があるという部分を見つけて、話を拡大させた。まことにその通り。こうまでしても飽き足らないくらいに軟弱でいい加減な男だ。与兵衛の意識の在り方に近代性を見いだして評価する立場もあるが、冗談じゃない。残された子供はどうなるんだよう。こんなわたしの極悪人じゃねえか。と子供は叫んでいます。

末廣筆

夢野久作

Kyūsaku Yumeno

by Maruo

●もちろん夢野久作『ドグラ・マグラ』に出てきた九州の脳病院の場面をイメージしているのだろうが、と書いたところでこの絵の解き明かしにはならない。上に並んだ文章すら無意味で恐ろしい。これはほとんどバカボンに登場する「レレレのおじさん」の世界だ。解説さそ丸尾氏は拒否している。流された血の意味もないのだ。だからこそ血は血として存在を強く主張する。この絵の中で正気を逸してないのは、血だけなのである。考えれば久作の小説だってそうではないか。丸尾氏は正しく久作を解説し、それを忠実に白紙の上に再現した。そう見れば納得できる、わけもないか。

● Even if I say this picture is probably the image of the Neural Institute in Kyūshū which appeared in Kyūsaku Yumeno's mystery "Dogura Magura" it still won't explain anything. Even the sentences that are listed above are meaningless and fearful. This is in the same world as "Rerere Ojisan" who appears in the comic "Tensai Bakabon". Mr. Maruo refused to decode this incident. There was no reason for the blood shed. That's why the blood strongly claims an existence. In this picture, the only thing that was not insane was the blood. When we think about Kyūsaku's essay it was like that. Mr. Maruo righteously understood him and he recreated Kyūsaku's image faithfully. When we look at it that way, we can consent to it. Or can we?

新英名三十八衆句

夢野久作

ぼんに夢の久作人ごたる奴

扇風機かな 自動車かな

カナブンかな かなかな

耳鳴りかな

変な音がする

ねえ、あんた

私 気はたしか

ですよ

なんです

その目は

疑ってま

すね

私 狂え

ませんよ

あんた 本当ですってばよ

私、まだ生まれて

ませんもの

ブーララ〜ンンンン

丸尾 未廣筆



新英名二十八衆句

遠野物語

柿見テキキ 死ニテ河童ノ見

川には川童多く住めり。
猿ヶ石川殊に多し。
岸の砂の上には川童の
足跡と云ふものを
見ること決して
珍しからず。

雨の日の翌日などは殊に此事あり。

猿の足と同じく親指は離れて人間の手の跡に
似たり。遠野の川童の面の色赭きなり。

二代まで続けて川童の子を孕みたる者あり。

生れし子は斬り刻みて一升樽に入れ土中に埋めたり。

其形極めて醜怪なるものなりと。

父

産

子

コンナキテウリクサイ
鬼が育テラレマスカ!

ホーレホーレ!
早ク死ニヤガレ!

アア! イヤガイヤダ
秋ノ御座ハ...

● One of the themes that I'd like to write about is "A Theory of Kappa as an Alien". I have a tendency to make everything into an alien but this view has some ground. Unlike the dragons and Nué, the Kappa was thought of as a real existing animal by the Japanese until recently. I guess this means there were many witnesses. Since they didn't have any concept about aliens, they told the story differently. Moreover, when we study the place distributions of Kappa's appearances, we find that these are located at the same places where they have found mad dolls that looks just like aliens. When we think about this, we could think of Kappa as an alien. Does this mean Mr. Hanawa has the same point of view with me toward Kappa?

和一筆 河童

●そのうち書こうと思っているテーマに「河童エイリアン説」がある。なんでもエイリアンにしてしまおうクセがあるけれど、これは結構根拠のある説だ。龍やヌエなどと違って、つい近世まで日本人の間には河童は実在の動物として信じられていたのである。それだけ目撃者が多く存在したのだろう。概念がないから、別の言葉で言い伝えられただけかも知れない。それに河童の分布を調べてみたら、奇妙に例の宇宙人をモデルにした透光器土偶の出土地と重なる。それを踏まえて見ると、どこことなくエイリアンに思える。花輪氏もあるいは私とおなじ目で見ているのだろうか。

Kappa
by Hanawa

甘粕正彦

Masahiko Amakasu

by Maruo

● The Asakusa Jūnikai that was drawn on the background doesn't impress the viewer. On September 16 of 12th year of Taishō, an anarchist Sakae Ōsugi, his wife Itō Noe, and their nephew Munekazu were assassinated by military police captain, Masahiko Amakasu and others. That means this crime was committed during the confusion which was caused by the big earthquake that hit the Kantō area. Three bodies were thrown down into a well which was located inside the military police site in Kōjimachi. Noe had been married twice before she got married to Ōsugi. During this period in Japanese history, she was considered to be a new type of woman because for that. It could also be said that for that reason there were lots of people who had ill feelings toward her. Even Ōsugi's friend thought of her as "a woman that made Ōsugi useless." and they hated her. These facts are besides the point. The problem lies in this title. Why is it "Masahiko Amakasu" and not "Ōsugi" or "Noe"? I don't think the reason is as simple we would like because he is the one who committed the crime. It might be dangerous but there's something about his coldness that draws people to him. She died when she was 28 years old.

●背景に刷れた浅草十二階が描かれてるのは象徴的な意図からではない。アナキスト大杉栄と妻の伊藤野枝と甥の宗一が憲兵大尉甘粕正彦たちによって虐殺されたのは大正十二年九月十六日。つまり関東大震災直後の混乱に乗じての犯行であった。三人の死体は麹町憲兵隊内の井戸に投げ捨てられたと言う。野枝はこの当時にあつて三度の結婚を繰り返した新しき女性だった。それだけに反感を持つ人間も多かったのだろう。大杉の仲間たちでさえ、大杉を駄目にした女と憎んでいた。それはともあれ、問題はこのタイトルだ。なぜ大杉や野枝ではなく甘粕正彦なのか。犯人だからという単純な理由ではないはずだ。ちょっと危険だが、甘粕の冷酷さには魅かれるなにかがある。野枝の享年二十八。

新英名三十八衆句

甘粕 正彦

ほっといたってせの中は変わる。

野枝さん あんた いい女だね

大初めのような男にはもったいないな

なに、野郎も血祭りにしてヤッ

たけどね

おいしいね

殺したく

ないな

でも

殺すん

だもんね

あんたみたい

な女は死ぬ

時どんな

声も出す

のかな

どうだい

ちっとは後悔

してる

かい

あのかガイストの詩人

と一緒にいれば

こんな事にはならな

かったろうにね

丸尾 末廣華



新英名二十八衆句

一寸法師と殿上人

今昔一寸法師ト
云つ小童部有ケリ。
体キワメテ小サクアリケレドモ
心極メテ猛クテ、昼夜朝暮二生命ヲ
殺ス以テ役トセリ。凡リ此ノ小童部ガ
心ハハ人トモ不思エヌ事共多カリケル。

オウノ
フネニ
ハシノカイ
オウノ
フネニ
ハシノカイ
都ニ修業ニ出シタレバ都ニテモ悪事ヲナス。
コノ童コリ実ハ鬼ノ子ナリ。恐ロシキ事也ト
ナム語リ伝エタルトヤ。



和筆

一寸法師と殿上人

Issunbōshi & A Nobility

by Hanawa

●一寸法師は怪しい。

●グリム童話にも「親指トム」の話があったと思うが、どちらも賢くて鬼や悪魔を退治する。民話の系統から言えば鬼退治の「桃太郎」や小さな体で力持ちの「力太郎」、そして竹から生まれた「かぐや姫」と同一の種類という気がする。つまりエイリアンだ。などと書けば呆れられるけれど「近頃 かぐや姫」はエイリアンとして市民権を獲得したようなので、格別飛躍した想像でもない。エイリアンと考えれば、この花輪和一の作品にも納得がいく。ただ物語をパロディ化したのではなく、物語の裏側に潜む一寸法師の不気味さを彼は感じとっているのだ。魔を解説する才能を彼は確かに持っている。

● Issun Bōshi is mysterious. In Grimm's fairy tale I think there was a story called "Oyayubi Tom". Both Issun Bōshi and Tom are smart and also they both eliminate devils. When we look at it from the folktale point of view, I think Issun Bōshi could be considered to be in the same classification with Momotarō, who was small but strong, and Kaguya-Hime, who was born out of bamboo. Therefore they are aliens. If I write this, people might think I'm crazy but nowadays, Kaguya-Hime is recognized as an alien. I guess it's not far from imagination to think of Issun Bōshi as an alien, then I can understand Kazuichi Hanawa's work. He captured the spookiness of Issun Bōshi that lives behind the story. Hanawa has an ability to read into evil.

末廣筆

眠り男

Sleeping Man

by Maruo

●一九二〇年ドイツで封切られ、世界を衝撃の渦に巻き込んだ表現主義の大傑作「カリガリ博士」を観た人間にしか、この絵は理解されないだろう。狂人カリガリに催眠術で操られ、昼の間は見世物小屋の箱の中でこんこんと眠り続け、夜の間に犠牲者を求めて彷徨い歩く殺人者チェザレ。それがこの絵の主人公なのだ。おきていと思うていたら実は眠っていたと冒頭にあるのは眠り男の苦痛に身をよじらす述懐だ。彼の意識はカリガリの意識だったのだから。夜の景色さえカリガリのものなのだ。いや、ナイフで突き刺した瞬間の悪魔的な恍惚さを眠り男にはなかったかも知れない。丸尾末廣の筆は正しくその不安と混沌を描出している。シームの入ったストッキングも憎い心遣いだ。

● This picture could only be understood by those who saw the movie. "Dr. Caligari", which opened in Germany in 1920, brought shock to the world. The murderer Cesare slept in a box inside the freak show house and at night, he walked around looking for his victims. Cesare was hypnotized by the madman Caligari. Cesare is the main character in this picture. It said at the opening, "when I thought I was up, I was actually sleeping." This is a recollection of the pain of being a sleeping man. He had Caligari's consciousness. Even the night scene belonged to Caligari, too. I don't think he even had the devilistic fascination at the moment he stabbed someone. Suehiro Maruo's brush has rightly captured the anxiety. To use nylon with seams is spiteful in further consideration.

新英名三千八百句

男 眠り

なんていいかげんな奴なんだ

おきこえると思つていたら 突は眠つてた

この街はデタラメだ 影は壁にはりついて

とれなくなる 不具の星は三角屋根に墜落する

えんとつは折れ曲がう煙を吐かない

草はとがってあくらはぎにつきささる

こり道は幼児の足で歩け

窓は半分開いている

女の首に静脈がすけている

しめあげろ

鳥の根止める

青ざめる顔の下目は萎す

くぼむ

手のひらは血で

あのだいふ

もどこへ

落としたか

黒くぬりつ

ふせ幕を

引け

あれは目も

あけたままで

眠る男

歩きまわる 鉛色の魔睡

丸尾 末廣筆



新英名二十八衆句

源頼光と酒香童子

稀有なる酔い心地かな

いと心安らかなり

夢のごときになりぬ

いみじう嬉しき粘れすすき

神変鬼毒酒に酔いしれし頼光

心のほどを見せんとて酒香童子の御前にて

家来を斬り臥す袖枕

これから楽しい

鬼ぐらし

頼光風まかせ

雲まかせに

歌をよみし

今日よりは

酒香童子と一緒に

家来死にゆく

大江山の月

源頼光

源頼光

家来

家来

酒

酔



和
筆

源頼光と酒吞童子

Raikō Minamoto &

Shutendōji

by Hanawa

● Kazuhiko Komatsu and Hiroshi Aramata pointed out that the devils' life must have been merry (from "Yōkaisōshi"). During the time when people were going through much hardship, the devils drank everyday, had women by their side, and a fortune hidden away. On top of all that, they lived in a place where it was far from the logical world that tied humans down. The reason we refuse to believe in the existence of devils is that we have the envy towards them. Therefore, administrators must exterminate devils. The corruption is a sweet seduction. An artist, Kazuichi Hanawa captured that point. When he said "starting today, I'm going to be with Shutendōji. The moon above the mountain where my vassals are dying". What a deep song with sarcasm and serious implications. I'm also like Yorimitsu.

● 鬼の生活は楽しかったはずだ、と小松一彦と蓮屋空が対談の中で鋭い指摘をしている(妖怪資料工作會刊)。人々が貧しかった時代には鬼は毎日大酒をくらい、女を側に置き、宝を隠し持っていて、その上、人間を縛る倫理観とも離れた地点にいる。我々が鬼を否定するのは羨望の裏返しに過ぎない。だからこそ施政者は鬼を退治しなければならないのだ。悪徳は甘美な誘惑である。花輪和一という絵師はそこをちゃんと描き込んでいる。

● 今日より酒吞童子と一緒に家来死にゆく大江山の月、なんと皮肉で含意の深い歌であることか。私もまた一人の頼光だ。

末廣筆

マーク・ボロン

Marc Bolon

by Maruo

● I don't know who Marc Bolon is. The era of glam rock was during the ancient days. Even the electric guitar became a thing of the past. "Get It On?" I think I've heard of it before. Cosmetic is my monopoly patent. Rock'n'Roll is now only a fad. These days, fantasy is passion. When someone perspires, it proves that he is from the country side.

● What was the group called? Really? T.Rex? Were they called Tyrannosaurus Rex before?

● Now I remember, there was a peppy guy in the group. So that was him. He died 10 years ago? I envy him that he died in a car accident. It would be embarrassing if he had died of AIDS.

By David Bowie

●マーク・ボロンなんて知らないよ。グラム・ロックの時代なんて古い大昔のことだものね。エレキ・ギターも前時代の遺物になっちゃったな。ゲット・イット・オン? なんだか聞いたことがあるねえ。化粧は厚くの専売特許さ。ロックンロールもファッションになりさがっちゃったし。今はファンタジーの方がバッションなんだ。まともに流す汗なんて田舎者の証拠だ。なんというグループって言ったっけ。へえ、T・レックス。じゃあ元のティラノザウルス・レックスかい。なるほど思いついた。やたらと威勢のいい兄ちゃんがいたな。あついがそうかい。十年前に死んじゃった? 羨ましいな。交通事故なんて……エイズじゃ情無いものデビッド・ボウイ様。

新英名千八衆句

マーク
ボラン

神なき地平の電気武者いずこ

マルオ
「天国の
マークさん
こんばんわ」

「マーク
君ネ僕ハ交通事故デ死ンダンダゼ
コナイイカゲンナ描キ方シナイデ
クレヨナ
知らナイ人ガ見タラ本ダト
思ウジヤ
ナイカ」

マルオ
「まあ、そう
あつしやらず
ジミ・ヘンドリクス
ジム・モリスン シド・ヴィシャス
ジョン・レノン イアン・カーティス
早死にしたミュージシャンの中から
あなをを選んで描いたのですから」

丸尾
未廣筆

マーク
「光栄なのかな？」
マルオ
「安らかに眠り
下さい」
マーク
「死ネ!!」



新英名二十八衆句

芳年と
幻太夫

幻にうつてとめかして 絵とかいを

「或る時、廿五年の
家へ女の幽霊が来た
事がある。」

名はお琴さんと云ふた由
それが病死する間際に
先生の前へは何ういふも
お禮に伺ひたいと
云ふを相な」

「ああ、そふですか」



和一筆

芳年と幻太夫

Yoshitoshi & Maboroshidayu

by HANAWA

● Maboroshidayū was a popular courtesan in Nezu around the 15th year of Meiji. She had short hair during this time so she was pretty modern for her time. She had a different taste. She had arhats and skeletons designed on her Kimono and she was applauded by her customers for the outfit. Yoshitoshi visited her often during the height of her career. Yoshitoshi and Maboroshidayū must have got along really well because Yoshitoshi was good at drawing piteous pictures and Maboroshidayū had very strange tastes. One day in the 18th year of Meiji, Yoshitoshi committed an action that can't be mentioned. This is all that's written in the source so we don't know what actually happened. I believe it was S and M. She used this fact to obtain a great sum of money from him. This was the end of their relationship. Yoshitoshi who lost control of his autonomic nervous system and Maboroshidayū's ghost that was seen by Yoshitoshi are put together in his work.

● 幻太夫は明治十五年頃に根津の遊園で全盛を誇った遊女。髪も昔は断髪だったらしいから、相当のモダンガールだったはずだ。趣味も変わっていて、うちかけに羅漢や野晒しの人骨をデザインさせて客の喝采を受けていた。その絶頂期に芳年は彼女のもとに通った。無惨絵を得意とする芳年と怪奇趣味の幻太夫とでは、さぞや気の合ったことに違いない。が、十八年のある日、芳年は幻太夫に対して言うに憚る行爲をつた。資料にはそうとしかないので、それ以上の事実是不明だが、恐らくS・Mだろう。それをネタに彼女は芳年に法外な金を無心した。二人の関係はそれで終わる。自律神経失調症気味の芳年と、彼の見た幽霊を幻太夫の怪しさにからませたのは作者の手腕に他ならない。

英名十八衆句



英名二十八衆句

春藤 治郎左衛門

扇の末の持沙汰はうの衆句

筆の写せはうの衆句

是ど劇場か脚色く言ッ

尾羽うち枯ー落ふも果て

身ハ足うへの浅まゝ死さぬ

試さんとさる共新録より

なんど切ます下坂の刀

蒲鉾小家の夢結ぶ間セ

何れ無題やな野辺の露とら

右和詩七言律の戯綴り

為永

春水記

一頁多
女房衆句
錦盛堂



英名三十八衆句

古手屋
八郎兵衛

山開人

交來述

一鬼一衛
芳三堂

難谷の心中と今世の言ふ聲は浪花の如く江戸前の
堅川北の猫茶屋の三蔵訓滑の猫の妻を多く通ふ
猫足口舌の床に寝子春中這方向せる猫まで
声狂ふ屍風は蝶はぐひ牡丹夜着のから草
にさむいともさむいむさふびう涎を垂るが
私語の夜短き牛房尻其さぬくの
あふねと首史とある首玉に結ふ縁
も金猫の小判の富田八郎兵衛接ふる道
そけにわく十二時斗の猫乃眼は
替ふはらめ乃らひと悟る猫の
月額の最狭き心の鬼
丹波屋乃
軒ふ伏待恨の
鼓さる迎ふ追ふ
無縁寺は
葉所の辺り仕留ハ
窮鼠かへて猫を食ふ其煩人の
夜語を傳聞て茲に筆記せんぬ



英名二十八衆句

天日坊 法策

秋風... 天日坊

一惠齋
天日坊

錦盛堂

翼ひろくもは高さを畏るに難あつての深きに
喜遊も仁義の道ふ才なく惡意に翼翳つて
其身を亡を叙あり四海を吞毒蛇法策八師大日坊が
教にりて觀音院の門に花賣の光浪を三
殺して墨附短刀を名に鑢倉山は星月夜を
望も自己頼朝の落廻天日坊と名のりて
竹川伊賀之助がと始め一味の惡意に
兵法二偏の力候封万戸の采その功
半途ありて大江廣元が智個
鑑に見やあつて天網終ふ
洩らすことかく由井ヶ濱に
むくもく命ハ潮は泡と
きん括名を太平の

物ぐりに残せり

忍川の水下小流を汲て

岳亭定圖記



英名二十八衆句 福岡貢

歌仙第一集とて
るを以て 史邦

夫柳風の狂句あ
云く神代なる
女下みゆを夜に
明を岩戸がこれの
屏風の内にあつた
契を朝熊山男あ貢く於緋
操もあつていふもぬあつた浦
恨まらぬ十寸鏡あつた雲
晴やぬ太刀風の官雨の官袖師
浦の袖傘を覆ひつたる尖さ
切先四辺いらさ常闇をてら
飯の光り物あ狹廻那須神は
敵役を御被りつた福岡
うちいこま神の歩は福岡
御裳濯河のなつとるむ

清溪の點功あらんし

假名垣魯文填詞



鬼一齋
錦盛堂
二刀

英名二十八衆句

遠き紅雲一葉の影に
龍貫

櫻一葉
芳巖居士

錦盛堂
三



吳竹の若葉のまろむ小雀の躍る忘まぬ
君が代も國に賊のう家あ原能忠良の殿と
巖家法則の土壁と懐くと天誅の折落と地獄
落とあ身と碎とるは終にわを杯も草の原田の面を露路の
脆さと知らば甲斐多るは金一時の破も我慢の白刃教人を
害して忽黒白生死の境天下確老の御籠と驛一カつれく忠士の及に貫く
嗚呼先代わらばしるく末代も嘆名とをこれ此逆臣亡て優曇華の今時の逢ふ
浮木の電千代盡く鶴喜代君は黄金咲御國入光り
羞明き伊達道真實うたれる名家さるいもん

巴月菴紫玉記



英名二十八衆句 笠森於仙

其のむききやうのうね木因

邪見の伯父ハ齊日乃闢魔はさゆとく

非業の狸ハ金を出し餌餓ふや似さうん

非道の業火一時空く干束の柴

悲恨乃余煙猶もつる三人の娘

姉ハ嫉妬に消急ぐ紐の稲妻

妹ハ水面に散うふ風は柳葉

谷中一番伊達者の於仙も

鍵屋名代と取離さるゝも

盛間の無き花火乃一期

因果ハ影追ふ巡り燈籠も

養父ハ戀慕乃

闇をばてゝつた

破さるふれの親ら刃に果ハ切篋の

背のも残せ。無縁法界秋あけ人時

横む笠漏る露の白玉砕けく

袈を傳て皆袖濡らハ種るるなりぬ

可志好以まふ

錦盛堂

一絶一齋
英名二十八衆句



英名二十八衆句

鬼神 於松

五月の夜に松の影を夢に

トハムの葉の霜の後の露の緑の林

一千年の艶色ハ雪と見紛ふ娘白浪

夫を慕ひ陸奥に不計名号劔の異名

尋て遠く菊之助多不貞を怒金角山

即隠霞夏目何某少女

買て満る佛心も情仇

父の敵と四郎三郎と討て手に

入る鬼神丸の銘刀

積る惡吏其身をへりし

かひなく笠松峠

古郷へ歸る錦の人名目

あはれ後行合羽

跡勤町の妓樓の姿を妻生男子

阿部川堤の朧夜ゆ夫を挑む女同士

強富を懲りて貧民の腹を義賊の首領

善惡持ふ分明なり名君乃仁政

應需

松河弥次左記



芳藏堂

芳藏堂



英名二十八衆句 園七

九郎兵衛

乃武者也、男の門と稱する左記

わけても難波高津の夏祭御輿の
俄美と競ひ續く長き
長町裏跡と追迫し
羽翼無法過言の
打擲の患目と三河屋義平治が
吾のうづつふ双突先の身り
丁の聲高ふ男殺し一呼りれて
其誤謬と解ふより召の
漸一切沈め恩義の爲め命と
重し潜り其場と紛退く
行先さへも晦き躬の闇よ一寸
徳兵衛が赤心いづる石割雪踏
夫と證識ふ捕者の討手とのぞんで
落させりきバト先備中玉島あすろ
恩人出世の功を遂自其子市松り
繩うちさせ和泉國へむのしーと我

一葉舎甘阿戲記

一葉舎甘阿戲記

錦盛堂



英名二十八衆句

國はるをうけ打や野ちのさうさう

४३

忠義と痴情に誥迫りて、袖り時雨は楓葉を繪こ扇乃謎々ふさふさて嫌々赤心を釈ね怒り典藏が自明使に形挺く傳と報怨をうり其言主家の大事を建て止吏と不得死を快く侯節の館吏國分寺へ忍入通辞香齋典藏を殺せり或曰百木傳七が奸計也

合典藏くわてんぞうが爲ために成なら
ざると吏しにとつとふふ友ともにせるる善人ぜんじんを
害がむむものものののとと實説じつせつののげげれれるる
識者ししゃににららんん者者一

一葉舍主人記



錦盛堂

惠齋
芳箋大筆

芳鑑筆

英名二十八衆句

勝間

松をくちぎる女身と杉風

河竹

其水記

一鬼土衛
少平筆
錦盛堂
三カ

並木五親が江戸狂言の終りー薩摩源五兵衛ハ
浪花花のりー菊野殺ーのりやを寫ーそ
路考茶と沢むろさ兒あ漆でより裁こせ
經と色色なせぬ仕掛文庫はあうが
中ハ兒の手拍の奈良坂や大和町の
浪宅ー身はうろろくあつて
二世とバウロく三弦はあうぬ
普ど五大力の造草のつまぐらと
思ふのひかり海老尾せろ
なき義理のともあむわりに
切さる三の緒さふ調子り
小方な切害はどの後悔ハ身の
言訳の書置よ
名残雄産は
いのち毛さう
泪のーぶれよ
袖あふー



英名二十八衆句

遠城
治左門

瀬川如皐記

俱天々

裁ざる

父兄の仇

へんむ

て恩義の

猶母孝と

義にあつて

一致の遠城兄弟やうて

なつ浪花津

此をねさる

春風と彼吾

妹子の酔り

老ひあつて

山會生田の

較さるの珠

好俊にあつて

約主武運の

運魁一敵傳

台雄刀さる間う

松のうらうう牙師

丹波の奇策の鋒矢

樹の間う不便と

柄者七とく越前

入道紀良の

草毒八郎へ



一惠齋
江方集

錦盛堂

英名二十八衆句

遠城 喜八郎

ぬらりありと異くあるものぞ大木

頼川如皋記

錦盛堂

尾治左衛門つぎ 刀引拔急激突戦弓削並林等ひ
 方人の多勢のために身もろく其身の病ハ
 廿三ヶ処非道乃刃に敗るも正徳五年霜月五日
 崇禎寺馬場の朝霜とひるさるるめ
 魂の緒も固より皇天すこととて其助太刀
 成仕一つるも病ハ受へる病が基となり
 何んハ顛狂奇病とちついのちつてく
 活りたるく生田傳八の悪行あらあ
 切腹せんにも遠城のあはれにや
 己の甲のひりぬともかきあはれ
 たのち今錯轉動く從右腹切末世の
 惡名暴逆不道の身にも後代非義
 の身にあはれ



英名二十八衆句

巴井 長春

夕まゝの井戸より深くたぐひ

な

欲ハ井戸の井戸より深くたぐひ
堀抜の水底まで清後にはこれ
分らざりし因果車は早らる廻で
終に鉤瓶の縄目にけいし悪吏ふ
ちりて八功は者る救医邑井
長菴ハ人と助る仁術まくとよりまゐる
謀計に非道なうをもちのなる我
我姉駕ふ年頃の貧乏やまひつ
煎ト詰一藥乃らふふ吉原（賣）
娘ふ身の代は金を敵とせり中衣れな
咄も浪とけやにつふさき道十郎の
忘れ傘と幸ふ濡衣を重兵衛と
殺も心にある鐘の丑刻と寅刻に云はし後
立せ切事なりし其後ハ雨も古川つも操もみち
赤羽根を誰白浪と立ち我が家に迎き平川前
新進も守といふ天満宮の梅討まて

河竹其水記



錦盛堂

一徳齋画

英名二十八衆句

白井

權八

蛇喰つとつハ夢ろハ旋子多々金銭

一家畧傳史

山々亭有人記

錦盛堂

魚上



天
叱てハ
斬殺方見廻セ
得て其實を審詳かせハ優
美慈惠なるじの一節切に
開を武勇ハ駅路の鈴ヶ森ハ
鳴を江戸ハる北川戸に
食客たる東長共衛ハ後藤の
せりふ出れど是を目せると
三浦屋ハ居膳ふねより思ハ大の
痛さのハハ結賣をいふ云結と
なる紫咲と衣々ハ他の囊中どうハ村正の斬味
せめつれらるれど私情さるる漆腰の如くそは
赤心と比翼塚に止るはハ鳥取の産さる 謂さうんらし

英名二十八衆句

鳥井 又助

そまき物逆のほろふ水外はど

道路に名おふ姫川に乗込む飛馬も
勇ましく梅の加賀殿夫よりそまき
金の狭箱対は長柄乃伊達道具
使侍士も我先ふと渡りあ船多し早川と
向の岸へ押渉る爰に好臣望月の
密意をうち鳥井又助水を
溶りく大將の馬は罪足るに
拂ひ馬も然るもあんどり打て
川へさへおとねらとちの老當士卒ハ
誠きたちを曲者とつゝ同くあ
水面忽ちこれあらぬ紅葉を流す
血は紅の首ひつらう
水底を何処にもなく逃失し
只頭更の問は変にさん

應需

為永春水記



一巻多
安永春水記

錦盛堂

英名二十八衆句

稻田九藏
新助

鞍轡とくさくさるるハ厨の音子

一盛春の誇り小間乃花も

一衰秋と悲む大井の月

長夜の夢を破る鐵棒の音

厄日當強し稲葉乃風

紅蓮に裁つ鮎の手料理

庖丁蹴切りハ西瓜の割方

子分を遺恨の

追番組板

親宿離と

別荘より
出せり

應雲

可史山人

のうね記



錦盛堂

錦盛堂

英名二十八衆句

濱島 正兵衛

名月也門(さつきのもん)をうらぐら松香

遠州濱松の産ちと免る彦につゝ
官に出く訴を聴け烈たりし。理を尋
非を尋るるに明白さる。度氏相擁で
徳を唱ふ是ふあはく正兵衛自己軀を
重んず。有司をあらんを一年大に
早魁(さくゑ)畑(はたけ)一種を生ぜ。田に二粒も
實のくば民若殺ふまけむぞりて。
正兵衛富家(とみけ)を救へんぞす。
余も難波大小相(なみのおほいさあひ)に故に
あれと固辞を濱島吾が命(いのち)を取
怒り同志とるひ官を走りて山にく。色。
益黨をむをひ富家の土庫に放火。
財をなふく貧民(ひんみん)より。後遂に賊と
なりて四海を横行を人呼で日本駄右衛門と云
薩摩郷忠信等の義賊(ぎぞく)はむれりつて

葛飾 隠士

井双笑曾記



錦盛堂

一巻多
女武蔵
三

英名二十八衆句

由留木
青木

陽みや燈のぬきさるる夜りの月六

丹波の領主由留木素玄文武

二道に疎うと縁と天性

園基を好みよりて

一族の笹山檢校盲

人あつても妙きと聞招く

圖一盤石の連々たる黒白も大領賢者と慢く侮頂を

灼る笹山やあはれと緯て断點を跨ぐ劫ぬ征と擦石結

盲人の關親絶し妙手を刺し不眼法師の贏石の終る輪トの

勝負の論時の怒り出る笹山が惡魂ハなぞ願を宝庫の堀越今下度の

手合をど如龜でと座頭の壁訴訟は是龜山の怪物はあり伊達与惣太

誠忠の諫を容へ大領が念も解く大原が官の末社に崇へ法師が

天魂彼神前の拙石も今ハ奮闘の

護神と國の口碑に傳えとなん

應需

瀬川如臯記



德一齋
小方三平
錦盛堂
三



甘く房酔題

わささ風拂おつくぬるふさ
 満ちた杯をそつとあつて
 ながめふさふさに自作の唱歌を聴かせ
 間夫よりうしろの深川の水と魚を
 よい仲町とあひあふと約束を
 石場へのりこんで知らず信助を
 ちか心切と冤罪にて虚言をつれ出を
 八幡鐘の後朝あつてあふ来り
 玉章の封書たうへり可愛き乃
 万さふくとさう百年目木曳街さ
 劇場観る運とはさむら
 波をちかふあつて夜風り
 散るはちち尾花をきに
 なつてはさむら

英名二十八衆句

ちかや
 五代右

三月と文庫のち名跡れ 去来



一巻
 坊屋集

錦盛堂
 二

英名二十八衆句

御所
五郎藏

先づちの端とむきあふ草履を
山石

河竹其水記

一徳山齋
方年筆
錦盛堂
五郎

富士
准了殿
山鹿の廓の
花の散るを
雪と都の五條坂
軒と並ぶ遊女屋の
暖簾の道我の妓女し
蝶と千鳥の翼駕牧持
かゝぬ妹許行猪武者の
土右門仁田の手柄をさるる金とせざる縁切あ
俠客御所の五郎藏が堪えり○ては業物めく
一番七子お燈管鬚かゝる夫と切ら其後
春の末かき妻のさう紀の間はあはれ難り垂
明と致せし科の腰切ふとさうの息も合ふ此世は
別道尺八の曲と消行なるさ夫婦の縁も浅間ヶ嶽も
高島の実さ今、記念の何草紙唯詠柄の種とをかせり



英名二十八夜句

佐野
池原左門

よつとけきもよつとけきぬぬ柳花

引附の金に二世迫契、妹背と蝶裏割漆の女房
約束終に一期の身と謬つ色欲痴情の
濁江に迷ひ溺一佐野甚間夫米之丞か
戀中とさうんの爲の黄金花も仇にわしせー
身の耻辱胸のわむりも八橋の泪の雨のつ消
痴手にゆきもくさの畏ハ治良左命と
割子約を脱籍も權分叔父と読、證書の文字も
消く踊るに仇夢を重る眼の都筑武助が謀は
一刀伊勢村正其身に崇る殺人刀庭より志のふ
下座敷の密やく話ハ眼の兩人今茲返を鋭は
己ふひめく鯛の電光出會首の血煙水も
溜た着釣税百人切の世話も名監官の裁断ハ
直あ善悪邪正と分亦是色と誠む一個の美譚とゆべきの

瀬川如皐記



一惠齋
方發再
錦盛堂

英名二十八衆句

因果小僧
六之助

山々亭有人暗記

義賊雲霧の二臂と云ふ五指を折さる豪傑う。其徒
廢業爲ふ及び齊一統と身の鏑とつむふを多し
導引賊治絶て久し同類あ不計ぬる
近江屋の淫婦奸夫の伴進に発る持病の
暴療治先廻つて三園の

半屋の厂木と
小指に願かつ
こそ鼻
づと

摘ひ

摘ふ因果同士霜ふ

消ゆる月代兵衛研出を氷の及水は出花も

血の出汐時と叫と向ふ人を堀の竹屋も香なく

穿て三途と向越私情一世乃大難苦元惡吏ハ巡る

大師道所られ品川あ同ト又ふあ一葉ハ

非道と云ふ天皇の雲霧を以て爲るなる

山々亭有人暗記



錦盛堂

一

英名二十八衆句



進んて兇暴に極き退く
 微弱に助る勇名常野り
 夷く博奕徒の魁首なり
 此日救多の假子と會し
 酒宴酣るるを中へ
 小疎傳吉なる者か
 持參はしるる者
 料理ハ一坐乃
 興と鳴神の音
 右衛門とその子分
 鐵平ガニツ乃首級是先達
 國沢周治と隙つる者あや有れば
 風呂鋪疾と實檢くむさむさふ
 賞讀は措も救益とつむハ實
 愉快の談話にて周治ガ傳記の
 關目なり

侯地のをきよふる外府の聖
 經

英名二十八衆句 國澤 周治



一系余
 甘んじ

一系余
 甘んじ
 錦盛堂

英名二十八衆句

西門屋
啓十郎

傷り秋うききる熱拂ふる

神史の魁首陽の春に新編金瓶梅花時開芳香
千里彼足曳る大和ある陸水の尼を五條の蒼室より
西啓阿蓮が非義毒惡黄金の眼圖を意車の
向ふ端端の斧振のあてうら落を尼の頭と
思へ傍に在合樂鐘の阿蓮が火箸おは
貫へ小僧白水あるして小手捕
ゆると浪の泡と消る三個の
目論因果の廻り逢瀬川親子
伯母姪主従の岸の岸かつねね
縁父子黒白のなうあふ善惡非
正賢不肖動静云爲の情態を罵と
曲亭一家の硯鏡鳴呼談何を容易もん
抑彼書乃讀法を張竹波を謂う言ひ
金瓶梅へ入るは是誤をりうと代
人々自己は是と誤る夫人小賊と説りの原戒を示をへ然こそ
聴者自己賊を做せりん
以て戒と爲べぬらん

愚山人 假名垣魯文題



一惠

一惠
笑樂車

錦盛堂
三

英名二十八衆句

短歌の
於百

何ぞの遠くを歩きの旅つゝぬ 必死

玄海灘の乗切ハ年浪寄る大晦日

者ならん越宝松利お

深き欲の海彼大怪

を目れ前切あつ

来る浪の平割

の威徳よく藏か

因果となくや綱を

綱誰とら波と浪花江と

滑とるは行三世の女夫とんと

後拾小舟重糸練の小夜夜ハ是金毛の素垣蛇と揮子るう啼

東の空に飛行の通方攝津を出入り武蔵此三國小傳來の素性ハ

現き白面九尾池の五葉に化粧の紅ば蕉消海鏡

執美を飾る滝田の城を傾々と媚と敵とる天婦の

素悲狼の人七詠くを二朝一夕害猶深く白氏の

妙文至きうね 美女の歡心傾國の害

嗚呼怖てらあをれど

前野拙菴主

假名垣魯文記

鬼一齋
芳年筆

錦盛堂



英名二十八衆句

鞠ヶ瀬
秋夜

懐新を我身より候う邪風流

一惠齋
方樂入車

錦盛堂
三才



車に
向對
郷ヶ谷の柄
行基太平記

其身のるども白石の昏夜でどうの
盤面小謀叛勝負の延やう定むる
ぬ常脱と指捲る大挂馬(中)をへて
剣を二味の变心止兆の破道煙入る
捕まの先手後も切らしてし何とを
縫く黒の四天か白磨き下し指股
袖もあり四隅を囲む四目殺

天誅造るもむしよく
終に取基と成りし
實善惡の両車録あるに
御代の榮えりり

山間人交來記



英名二十八衆句

直助
權兵衛

つるつる暗あそび六皮す 宝書参

錦盛堂
三刀

義黨が一味のちうひんをむききり。忽ち
錦の百味簞笥不義の百計時が適く
速にほむ千金方應報の期にりて
天罰疾く来る。隻四枚肩は驚き
及なぬ屠蘇袋の三角死をみえ
功一かく暴療治の庖丁終ふ其身乃
命とさむ。正字正字小山田が果
直の字直に権兵衛が心拷器
憂悶薬をあらたし。明智は醫案
其圖のうりて能毒初々分辨り
訴の場可驚神法毒と以て制られ
毒をそえ。天巧不許配劑の妙
をべし。善惡五ふ礼。庸医も憚て
正説劇場楽交を我禽

可志好以記



英名 千八衆句について

宗谷真爾

●本邦初版は、大正11年に刊行された。

●表紙は、大正11年刊。

『Emei Nijūhasshūku』

Shoji Soya

●each 1966, 33.8 × 24.5cm

●園芳門下の兄弟子「恵斎芳縁」と、当時「魁滑」を興行していた芳年の競作になるこのシリーズは、目錄を加えて総数二十九枚から成り、錦堂屋の版行。俗にこのような血しぶきの版面を、血みどろ絵、無惨絵などというが、浮世絵史上ほとんど全葉を血の絵で編んだシリーズは他に類例をみない。単独版行一枚物では当時比較的多かったこの種の絵画の代表的な傑作である。安政二年の江戸大地震で吉

原の惨状を描いて憂をのあった芳縁と、新進気鋭の絵師として頭角をあらわしはじめた芳年とは、たがいらいバル意氣も旺盛で火花を散らしている。芳縁はその後美人画に主力を移けるようになり、芳年はその生涯を血と幻影の画家として執念を燃やしたが最後には狂死する。二十八衆句は「宿曜経」の二十八宿の語呂合せて、この二十八枚には人間の醜さと宿業とが象徴的に描きつくされている。

● This is a collection of *ukiyo-e* completed by Ikkeisai Yoshiku, one of Kuniyoshi's pupils, and Yoshitoshi, who was then called Ikkaikai, in friendly competition with each other. The collection consists of 29 sheets including the catalogue and it was published by the Kinseido Publishing Company. These bloody woodcut prints are commonly called *chimidoro-e* (blood-stained print) or *muzan-e* (atrocious print), and this series consisting mostly of bloody paintings is unparalleled in the history of *ukiyo-e*. Each sheet in this collection is printed separately. This is one of the greatest of the collections of woodcut prints which were comparatively common in those days. Yoshiiku was then famous for his paintings in which he dealt with disastrous scenes at Yoshiwara caused by the great earthquake which occurred in Edo in the second year of Ansei. Yoshitoshi was also distinguishing himself as a young and rising artist. These two artists decided that they were natural rivals and competed with each other for fame. Later, Yoshiiku became interested in *biijin-ga* (paintings of beautiful women), but Yoshitoshi continued relentlessly as an artist of blood and illusion, and in the end died mad. This "Emei Nijūhasshūku" is a kind of game of rhyming the "Nijūhasshūku" in "Shukuyōkyō", and these 28 sheets symbolically represent the ugliness and *karma* of human beings.

76 春藤治郎左門

Shundo Jirozaemon

芳澤あや Yoshiko

77 古手屋八郎兵衛

Furuya Hachirobei

芳澤あや Yoshiko

●尾羽うちからした春藤治郎左門「新しい刀の試し斬りをしようとして、自分が死んでいったという話。地蔵菩薩にうちまたがつて死を迎えようとしている。「何たる無常や野辺の露」とうなづけた。

●「鑓の心中」といって、一節は、浪花あらで江戸前の、駿川北の細茶屋にという書き出して、富田八郎兵衛が、無縁寺の墓地における惨劇を描いている。女がのけぞって脚が左斜め上方向へ高くあがり、その女体に又

●Shundo Jirozaemon tries his new sword on a chance wayfarer but after all he must die himself. He is mounting on the statue of Jizo Bosatsu, and waiting to die. "How cruel and merciless... Is my life as evanescent as the dew?"

●Tomita Hachirobei depicts the cruel tragedy in the grave yard of a temple where persons without relatives are buried. The opening paragraph is as follows: "The double suicide at Unagidani, about which even now we talk, took place at Nakajo-ya of Tategawa-san, not in



【78】天日坊法策

Tenichiro Hosaka

芳幾筆 by Yoshika

●大岡政談のなかに登場する徳川天一坊がモデルである。徳川吉宗の赤胤と自称し、將軍に遇見しようとしたが、大岡忠相に見破られ鼻血を流されたことになっている。花売りの老翁が三を殺して、墨付短刀を奪う場面を描いたもの。実際は、修善寺藩士坊政行が徳川の一派と称し、処刑された実話に基づいている。

するように男のからだを描かれ、しかも墓石を床にみたてたこの図は、血と死とエロスの一致を象徴しているかのごとくである。女の顔が性を表徴し、血が死と、空懸は交響、の側はリンガムなのである。

●This painting is based on Tokugawa Tenichiro, who appears in the cases dealt with by Magistrate Ooka. Calling himself an illegitimate child of Tokugawa Yoshinaga, he tried to be received in audience by the Shogun, but he was soon thought by Magistrate Ooka Takiyaka. Here we witness painter Tenichiro who has killed an old flower girl Osen and is now trying to steal a sword together with his own mistress. However, the story ends with his own untimely. However, the story called Genbiko Kaigoro was persecuted by calling himself a kinsman of the Tokugawa family.

【79】福岡貢

Fukuoka Mitsugu

芳年筆 by Yoshitoki

●男にみついで於^{なり}相が、福岡貢に斬られ、皮膚のよじれた生首が転がり、周囲に紙吹雪が舞っている。首を前に突き出した貢の得意げな表情は空にササメスライクな陶酔があるが、紙吹雪や蝶が空間に散っている構図は、芳年の狂気に現れる幻覚をあらわしているように思う。むしろ貢は芳年であり、紙吹雪は被害妄想の産物ではなからうか。

●伊達騒動に有名な原田甲斐をモデルにした仁木直則(彌三)で、ここではやはり逆遊^{さかあそび}して扱われ、忠士の刃に倒れたことになっている。逆の機の前、鎖かたびらを滑り、血刀をにぎる仁木直則が立つ。つる。

●As Oken is enamored of a man and contributes to his support she is slain by Fukuoka Mitsugu. The severed head rolls over and small pieces of paper are fluttering about in the air. There is some sadistic intoxication in his triumphant handling of the sword with his neck a little protruded. The design of flying pieces of paper and butterflies seems to represent Yoshitoki's illusion which is accompanied by his insanity. Of course Mitsugu is Yoshitoki and the pieces of paper must be the production of his delusion of persecution.

●This painting is based on Niki Naonori, the model of Harada Kai, whose name is well-known in *Daido Sazō* or *The Disturbance in the Date Clan*. He is treated in this painting as a traitor, and Naonori is slain by a loyal samurai. He is standing in front of a sliding screen on which a dragon is painted. He wears a chain hemp garment. He is holding a bloody sword in his hand.

【80】仁木直則

Niki Naonori

芳幾筆 by Yoshika

【81】笠森於仙

Kasumori Osen

芳年筆 by Yoshitoki

●江戸期、谷川笠森仙術にあった水素屋敷の娘で、この明利の美人お仙を描いて有名なのは鈴木春信である。江戸三美人のひとつとして。河竹黙阿弥が怪談月笠森に題色。実在のお仙は堅気の人たたらしにむろんこことりあげられたのは物語のお仙である。髪の手が輪のようになつて男の手に巻くついているあたりに芳年特有のエロティックなシンボリズムを感じさせるとともに、女のけぞった姿勢も美しい線をなして虚空をつかみ髪の手をくわえたお仙の表情にも無心なエクスタシーがある。おそらく芳年の、「笠森於仙」「古手屋八郎兵衛」「稲田九藏新助」の三つの殺し絵は、エロストと

Nanwa, but in Edo. The girl bends herself back with her leg high to her left ass, and the fallow is painted in the way that her body crosses the girl's body. Here the tombstone is likened to the floor and the design seems to symbolize the concordance of blood, death and Eros. It seems that the girl's face symbolizes sex, the blood death, the posture sexual intercourse, and the sword *lungum*.

●Osen was a daughter of a tea house, Kaigyo, located at the precinct of the Fukuoka Kasumori-nori Shrine. She lived at the end of the Edo era. Suzuki Harunobu is famous for painting the beautiful girl Osen, who lived in the year of Meiji. She is depicted as a young one of the three beauties in those days. She has been mentioned in "The Ghost Story of Tadokaze-mori" by Kawasake Mokuan. Osen who actually excited seems to have been a decent girl, but here in this picture Yoshitoki deals with the Osen in the story. The eroticism which is characteristic of Yoshitoki is felt in her hair twisting like a ring round the hand of the man. The girl bending herself back is painted in beautiful lines, and when Osen grips at the air and bites her own hair, she must be feeling an involuntary and innocent ecstasy. We must pay

82 鬼神於松

Kijin Omatsu

芳幾筆 by Yoshitaku

ナトスの合一を描いた作品として注目すべき作品と思う。芳幾は細部の技にすぐれたかもしれないが、本シリーズでこれらに見合う作品をあげれば、いさゝか美代吉にたどり着くのみである。

●父の敵四郎三郎を討つて手に入れた鬼神丸の名刀を手にした義賊の首領である。松阿弥交泰が「愛生男」に記しているが、芳幾の特異な男装女給の「うつあつ」の中に芳年が「新撰東鑑」のシリーズでやはり於松を描いているが、その頃はすでに血潮をかくとがきつ、刃を振りかざし、血の流れる寸前を描いて成功している。

●技において芳幾、情熱において芳年と師国方が評したように、二十八番中、稲田九蔵、直助権兵衛とならんで、三大無惨絵のひとつといえる。地獄の血に墨をした男の血刀の下に、泥水と血の海があって、血と汚泥が四方に散っている図は凄惨の極みといえる。

●忠義と痴情にせられて、使節の趣、国分寺に忍び入り、通辞香斎蔵で斬るの図。柱にランディアがある、青龍刀のようなサーベルと、明子が入っている。さても当時のエキゾチックな風俗をしのばせる絵である。

●並木五郎作の江狂言が綴った源五兵衛を素材にしている。小刀を殺して書置きを記し、後橋の涙にうなづいて。左手に女の生首をいんだ包みがある、破れた行灯に口が首をたてている。

●遠城治左門とその弟喜八郎が禁衛寺馬場において敵生田伝八のために返り討ちになった。瀬川如草の文筆は喜八郎との縁をのびにうた、続き絵を芳年を描くところ。

●芳幾の遠城治左門の続き絵として描かれた禁衛寺馬場の敵討ちであるが、多勢の助太刀のために、禁衛寺も手傷一二三、所を負い血まみれになって返り討ち。のちの生田伝八は従右腹切といふ所からとらう。この芳年

attention to the three murder paintings, "Kosomori Oen", "Fureteya Hachirobei" and "Irida Kyūzo-Shinsuke", because in them Yoshitaku has expressed a confluence of Eros and Thanatos. Yoshitaku was a master of miniature and only "Gashū-jin Miyokichi" can be compared to this painting in this series.

●The man with Kishimaru, a celebrated sword, in his hand is the head of chivalrous robbers. He got possessed of the sword by killing his father's enemy, Shiro-Shūro. Matsunori Kōrei makes mention of this painting and says that this is "Heiō Nanshi" (a man is dead). This painting is perhaps one of Yoshitaku's characteristic paintings of women in male attire. In later years, in his "Shin Azuma Nishiki" series, he painted Omatsu, but then he was unable to paint a bloody scene, and only painted a scene just before blood was shed, the characters holding the swords high above their heads.

●Yoshitaku in technique, Yoshitaku in passion. "Kun-Yoshi, their master, once commented on the two pupils. This is certainly one of the three *muzan* (a person painting among Enmei Nishikubashi), the other two being Irida Kyūzo and Naosuke Gurobi. A sea of muddy water and blood is under the sword of a fellow tortured with the scenes of hell. The scene in which the muddy water and blood splash in every direction is cruelly itself.

●Denkichi steals into the Koban-jū Temple, the residence of a mission, and, tormented with loyalty and blind passion of love, slays Kōsei Tenzō. A chandelier is on the pillar. A cup and a saber that looks like a Chinese broadsword and in the air. Indeed, this painting reminds us of the exotic manners of those days.

●Sasuma Gengobei, compiled from *Edo Kyōgen* (anama as the period of) by Nanshi Gōbei, is the material for this painting. He killed Kōman, left a will, was drowned in tears of anger. He has a parcel of Kōman's and severed head in his right hand. Inside the paper-covered lamp, a lamp-wick is making a sound.

●Enjo Jizaeemon and his brother Kikachō are killed at the riding ground of the Sozen-ji Temple by Ikuta Denpachi, the object of their vengeance. Segawa Nyōto writes a serial story in connection with the brother Kikachō. This is followed by a painting made by Yoshitaku.

●This is a scene of vengeance at the riding ground of the Sozen-ji Temple. This painting follows Yoshitaku's Enjo Jizaeemon. Kikachō is wounded at 23 spots as many people have assisted the object of vengeance. He is smothered with blood and killed by Denpachi. It is said that the brothers' object of vengeance, Ikuta Denpachi,

84 十木伝七

Jūki Denshichi

芳幾筆 by Yoshitaku

85 勝間源五兵衛

Kasuma Gengobei

芳幾筆 by Yoshitaku

86 遠城治左門

Enjo Jizaeemon

芳幾筆 by Yoshitaku

87 遠城喜八郎

Enjo Kichichirō

芳幾筆 by Yoshitaku

【88】邑井長庵

Murai Chohan

芳幾筆 by Yoshika

●河竹默阿弥作歌舞伎脚本『徳藏傳説』にやむ敵兵若邑井長庵の物語である。おのれの姉嬢が娘を宮原へ売ったその金でうらばって殺し、濡髪きせて重兵衛を殺す。月代の上から刃が頭を割っているが、その被害者の姿態が印象的である。

committed suicide by *hara-iri*, or disembowement. This death mark is characteristic of Yoshoka's, and the artistic perfection is found in his later works "Kishida Hideo" (1830).

【89】白井権八

Shirai Gonpachi

芳幾筆 by Yoshika

●一六七〇年頃実在した島原藩の藩士で、本名を平井權八という。浮城堀や歌舞伎に脚色され、花川三郎の遊女小紫の作者に迷い辻斬りを働いた。振りかざしているのは村正の坂刀、腹道つづる男の妖怪のような面差を、福をこした魁偉な男の髯髯が、美少年とみごとなコンパラストをなしている。

●He really existed about 1670. His real name was Shirai Gonpachi, a clansman of the Torii feudal clan. He has been dramatized in *gyōri* and *kabuki* dramas. He was dependent on Banza-in Chōbei of Hamabawato. He was enamored of Komurasaki, a harlot of Muraya licensed quarter, and finally resorted to highway robbery. The sword which he is brandishing over his head is the ominous sword of Murasami. The monster-like face and buttocks of the gigantic man on his stomach with *jandakō* (a *keeshō*), make a beautiful contrast with the handsome young man.

【90】鳥井又助

Torii Matsusuke

芳幾筆 by Yoshika

●足を払われた馬もたてども、もんどり打って川へ落ちた大谷の首を斬ると、川面は紅葉を散らしたようにみえた紅の首を口にくわえた鳥井又助はいずかへ姿を消していったという。青い水の斜線のなかに生きゆくわえた又助の水底を遊ぶ空が、みごとな構図でとらえられていて、芳幾作の逸品のひとつといえる。

●The general's head is severed when he falls into the river together with his horse. The surface of the river looks as if it were a carpet of autumn leaves. It is said that Torii Matsusuke had a bloody head in his mouth. The design of dark painting is quite splendid. Matsusuke is swimming under the floating blue lines under the water. He has a fresh severed head in his mouth. This is certainly one of his masterpieces.

【91】稲田九蔵新助

Inada Kyuzo-Shinsuke

芳年筆 by Yoshika

●本シリーズ中最も有名な作品。一飯桶をかりきまみれば頭かなづの首でござって、俗に飯桶斬りといわれている。芳年特有の嗜虐性が、逆さ吊りと髯髯斬りによって表現されている。髯髯と髯と、物体のように垂れた乳房と、被虐のはての死のエクスタシーを白熱的に刻んだ女の表情など、本シリーズ中白眉のものたる世評に恥でない。

●This is the most famous painting in this series, and is commonly called "angler spitting" as it is based on the following *haikai*: "When spitting angler it is as if you were in a kitchen. Yoshoka's satism, which is characteristic of him, is represented in the design in hanging the body head foremost and cutting the buttock flesh. The rope, the great buttocks, the hanging breasts, the girl's kishō face with masochistic ecstasy, these are the elements that make up the finest painting in this series."

【92】浜島正兵衛

Hamajima Syōbei

芳幾筆 by Yoshika

●豊国の見立錦絵で暗示をえて成った河竹默阿弥の世話物『青砥鶴の影』の一場で、つまり俗にいって白浪五人のひとり日本駄右衛門のいっぴいである。遠州浜松在の薩 徒党をくんで首領となり、富家の蔵に放火し財を奪う貧民で与えたが、のち四河に横行する賊の首魁になった。芳幾らしい穏当な作品である。

●Hamajima Syōbei is another name of Nippon-Daemon, a hero in "Aotozaki Hana no Nishikie", a drama of contemporary life by Kawakake Mokuan. Kawakake was inspired by Toyokuni's *midate midate-ke ranshi*, and made the drama. Nippon-Daemon is generally called one of "Shiranami Gonin Otoko" or Five Burglars. He was born in the suburbs of Hamamatsu in the province of Totomi. He became a head of rascals, set fire to

【93】由留木素玄

Yurugi Motokatsu 芳雄筆 by Yoshinshi

●丹波の国の領主由留木素玄は文武二道に秀でていたが、囲碁にこり、笹山院校にあらわれて怒り、これを殺害した。その死後、素玄の前にしばしば現われ、とうとう「鬼山怪談」である。忠臣伊達与徳太の諷刺によって検校の輩は大原の宮にまじられたといふ。

●Yurugi Motokatsu was a feudal lord of the province of Tanba. He had both literary and military accomplishments, but he was too much absorbed in the game of go. He was very furious as Sasayama Kenkyo despised him for his poor go play and killed Kenkyo. The ghost story of Kaneyama says that the ghost of Kenkyo frequently appeared in front of Motokatsu. Motokatsu's loyal follower Date Yosio is said to have advised Motokatsu to enshrine the soul of Kenkyo to the Okarano-miya Shrine.

【94】べいしや美代吉

芳雄筆 by Yoshinshi

●若者美代吉の屋形船における惨死は、豊国も描いた。さすがに芳雄のそれは、血刀に貫かれた女の最期を、つけた帯・赤い蹴し・わずかにきいた白うしろ顔など、よくてエロティックに描きだしている。波に乗る船、血の刃、のける女の姿態は性そのものを象徴するものにくて、芳雄の著作のひとつである。

●Toyokuni also painted the atrocious and violent death of Geisha-girl Miyokichi on a house boat. Like the great artist that he was, Yoshida erotically painted Miyokichi's last moment: the sword piercing her, her sash loosened, red *kedashi* and her thigh slightly seen. The house boat on the waves, the bloody blade, the girl's posture bending herself back, seem to symbolize sex itself. This is really one of his masterpieces.

【95】御所五郎蔵

芳雄筆 by Yoshinshi

●諸武者の土土エ門が、俠義御所五郎蔵に斬りかかり、このみを実像として描いたこの構図は、まこと心憎く出来映えといふよう。

●Daimon, a footlady warrior, is about to slay Goshō Gorozō, a *kyōzoku* or a man of chivalrous spirit. Here Daimon is represented only as a black shadow and the sword is painted as it really is. The design is indeed irresistibly excellent.

【96】佐野次郎左門

芳雄筆 by Yoshinshi

●元禄・享保年間の百姓で、下野勤木忠佐野に実在した人。嫉妬に狂って吉原の遊女八橋を斬り殺した事件があり、歌舞伎に脚色された。南北「若艶色」並木五藏「遊女御合縁」三世河竹新三「蘭語上」に「新艶」などがある。次郎左門が廓に斬りこんだ本図は、なぜか八橋が登場しない。のちに芳年が「新撰東錦絵」に描いたが、これは美にみごとな作品になった。

●He actually existed at Sano in Shinotsuka (Yoshigawa). He was a farmer at the periods of Genroku and Kyōhō. Blinded by jealousy, he slew Yashibashi, a harlot at Yoshiwara. This incident has been dramatized in *kedashi*. It is impossible to know why Yashibashi does not appear on the scene in which Jizōemon attacks the geisha-house where Yashibashi lives. Later Yoshitoki painted the scene quite skillfully in his "Shinsen Arima Nishiki".

【97】因果小僧公之助

芳雄筆 by Yoshinshi

●義経三郎が一臂とよばれ、五指を所らるる豪傑なり」と山々亭有公が記しているが、その公之助が、近江屋の淫婦奸夫を殺害して図である。一品川でみずからも呪刃に倒れた。それは天の雲霧が、非道をこらす「刀であつた」といふ。

●Samsenji Yūjin writes as follows: "He is called the right-hand man of Umino the chivalrous robber, and one of the five gallant men." This is Rokumonsuke, and here he kills the adulteress and adulterer. Later he was murdered at Shingawa. They say that he was put to death by the sword of justice of Umino in heaven.

【98】国沢周治

芳雄筆 by Yoshinshi

●江戸末期、上野の国国定村の侯を、本名最岡忠次郎即ち国定忠治（一八一〇—一八五〇）をモデルにして、浪曲や大衆演劇などに有名なものだが、あまたの博徒たちとの酒宴の席に、鳴神の音右衛門と鉄平の首級を小僧の

●This painting is based on Kunisada Chūji (1780-1850), a *kyōzoku* or a chivalrous person, of the village of Kunisada in Kozake Province. Chūji lived at the end of the Edo era. His name is so famous through *nanbu bushi* and other popular dramas. In this painting Keen-ko Denkichi,

warehouses of rich people and robbed them of their property, and gave what he had robbed to the poor. Later he became a head of pirates and plundered far and wide. It is like Yoshitoki making this painting quite moderately.

【99】高倉屋助七

Takakura Ya Suikeshichi

芳年筆 by Yoshitoki

●歌舞伎十八番のひとつ、助六所縁江戸役にて材を得た、いわゆる花川戸の助六である。津打治兵衛作の世話物。初演は二木市川団十郎。曾我の五郎が名刀友切丸を、三浦屋の揚巻に横恋慕する梅の意休から奪いあふ話である。剣は名番の伊勢軒正、晩はおぼえの助六が、なんと四人斬りつくしと山々亭有人が謳いあげている。

伝吉が持参し、血まみれの首を背に酒くみかわしているという図柄である。

with the severed heads of Nankam-no Ooemon and Teppei in his hands, comes into the room where many *bakuto* (gamblers) are giving a drinking party. They are exchanging cups, and the heads become the attraction to the party.

●This painting is what is called "Sakuraku at Hanakawano" based on "Sakuraku Yaburino Edokugura", one of *Kashū* 18 classical pieces. It is a story of Segs Goro, who takes back a celebrated sword called Tomadafimaru from Ikyū the Whiskers who has impromptu made love to Aemachi of Minataya. What Sansetsu Yūjin writes is quite to the point, "The sword is the honorable Murasame, the fighter is Suikeshichi, an expert of sword. It is natural that he should slay the four with case."

【100】西門屋啓十郎

Seimon-ya Keijūto

芳年筆 by Yoshitoki

●西門というのは「金堀梅」の密蔵西門慶の名をかりてゐる。既述「新編金堀梅」の物語筋と同一もの。西門屋啓十郎と阿波、備前・備後・備前と相当の、非善悪懸断であるが、斧をふつてうろたへたのは尼が自と思つたら、かたえにありし素直であつたと記している。しかし、敵をうちおろして生首がとび、首の切断面から血が吹き上げの水のように数条の線となつて飛んでいるさまが芳年としては猛烈である。

●The name "Seimon" is taken after Seimon-kei, a rich hero in "Kinsudaki". That is to say, the painting is based on "Owari Kinsudaki". Seiki, alias Seimon-Keijūto and Owen (corresponding to the same Japanese) are human and infernal characters in this story. It is written that what was thought to be a severed head of a man was in reality a kettle near by. However, the scene of a head being severed by a swing of a broad-sword is fierce for Yoshitoki. Blood is streaming in several lines out of the cut end of the head.

【101】姐妃の於百

Daki-no Oyaku

芳年筆 by Yoshitoki

●姐妃とは殿の村王の寵姫で淫楽残忍をきわめた女。転じて姐妃とは毒婦の意である。芳年描く姐妃の於百は、そこへ行くと「盛」を配し芳年らしい被害妄想の感覚をもちこんでいる。「美女の戯心 風園の門」に仮託し魯文が面贅を記しているが、このシリーズには珍しく血のみさ(美女と妖毒)の図柄である。

●Daki was a girl who won the favor of King Chōa of Yin. As she was lewd and cruel, today by Daki we mean a vamp. In painting the vamp Daki, Yoshitoki adds a paper-covered lamp and a ghost to the scene, thus increasing the effect of his delusion of persecution. In writing a legend over the painting, Kanagaki Robin explains, "The mist of a heart in a beautiful woman tends to destroy a nation. This painting of a beauty and a brute is one of Yoshitoki's rare paintings in which blood is not shed."

【102】鞠ヶ瀬秋夜

Marigase Shuya

芳年筆 by Yoshitoki

●章車に向う燈籠が斧の柄杓し幕太平記「書きたしげ」黒の四天に白鶴をの十手燈籠もつて、四目殺しの天誅下あり、困窮したとえてあるが、実は慶安太平記の丸橋弘毅が素材である。捕手にかこまれた中津の奮戦ぶりが雄渾である。

●This is based on Marigase Shuya in "Kieian Taketaki". Chūya is surrounded by those who came to arrest him, and he is bravely fighting against them.

【103】直助権兵衛

Naosuke Gombei

芳年筆 by Yoshitoki

●直助権兵衛は、言うまでもなく大南北の『東海道四谷怪談』に材を得ている。芳年のこの皮剥ぎと『幕田九蔵新助』の二作は、本シリーズ中、最高の無惨絵として定評がある。丸い眼球、むき出しの刀、船のようのにびた皮膚、握りこぶしの形にまじり、異常な芳年の執念がうかがえる絵である。

●Naosuke Gombei is of course based on the great Nanboku's "Tokaido Yotsuya Kwaiban", or the *Ghost Story of Tokaido*. Yotsuya, Iwashita Kyūzō-Shinsuke, and this painting are generally accepted as the most excellent "murder" or atrocious paintings among other sketches in this series. The round eyeballs, naked sword, stretched skin like wheat gluten, and the shape of the fist must represent Yoshitoki's abnormal obsession.



江戸昭和競作無惨絵巻名千八衆句



一九八八年一月一〇日初版発行

定価

一九〇〇円

著者

花輪和丸尾末廣

発行所

小川道明

印刷所

株式会社リプロボート

印刷製本

大日本印刷株式会社

装本者

鈴木三誌箕浦卓

装幀印字

井上聖昭

© K. Harawa & S. Maruo ISBN4-8457-0312-2 C0071